

昭和40年度

地力保全基本調査成績

〔北見地域 訓子府町〕

北海道立中央農業試験場

37

訓 子 府 町

頁	行	正	誤
7	上から 11 行目	粒状の複合構造	粒状の複含構造
12	上から 20 行目	10 y R ~ 2.5 y	10 y R ~ 2.5
16	上から 9 行目	健苗育生	健留育生
18	上から 9 行目	北海道立中央	北海道上中央
18	下から 2 行目	客入して	容入して
19	上から 16 行目	均質連結状	均資連結状
20	上から 15 行目	年間降水量	年間隣水量
22	下から 16 行目	置換酸度	置換性度
27	上から 13 行目	風化細小礫	風乾細小礫
28	上から 8 行目	柏丘統等があるが、	柏丘統等が、
30	上から 12 行目	腐植を欠き	腐植を欠き
"	" 23 "	風化細礫	風細礫
37	上から 26 行目	グライを呈する	グライ呈を呈する
42	下から 9 行目	高尾欽彌	高官欽彌
44	下から 5 行目	II t f s e	II s f s e
51	下から 6 行目	腐朽細小中角	腐植細小中角
60	下から 8 行目	地力保全上の	地力保金上の
68	下から 7 行目	一般に弱湿性を呈し	一般に弱湿を固し
74	表	災害性	災害状
"	下から 24 行目	過湿の	過温の
78	下から 6 行目	固結火成岩	固結大成岩
92	下から 2 行目	排水効果はかなり	排水効果はかな

序

現状における土地生産力は土壌の諸種の阻害要因によつて充分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつつある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するための昭和34年より農林省農政局の助成をえて基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和40年度に行なつた15市町村をとりまとめたもので、ここにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和41年3月

北海道立中央農業試験場
三島京治

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号(昭和36年9月、農林省振興局農産課)によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号(昭和40年3月、農林省農政局農産課)及び水田土壌統設定第1次案(昭和38年12月、農技研化学部土壌第3科)によつた。

土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

調査職員氏名

化学部	部長	長谷部	俊雄
"	土壌改良科	科長	後藤計二
"	"	第1係長	小林荘司
"	"	研究職員	高尾欽彌
"	"	"	菊地晃二
"	"	"	水元秀彰

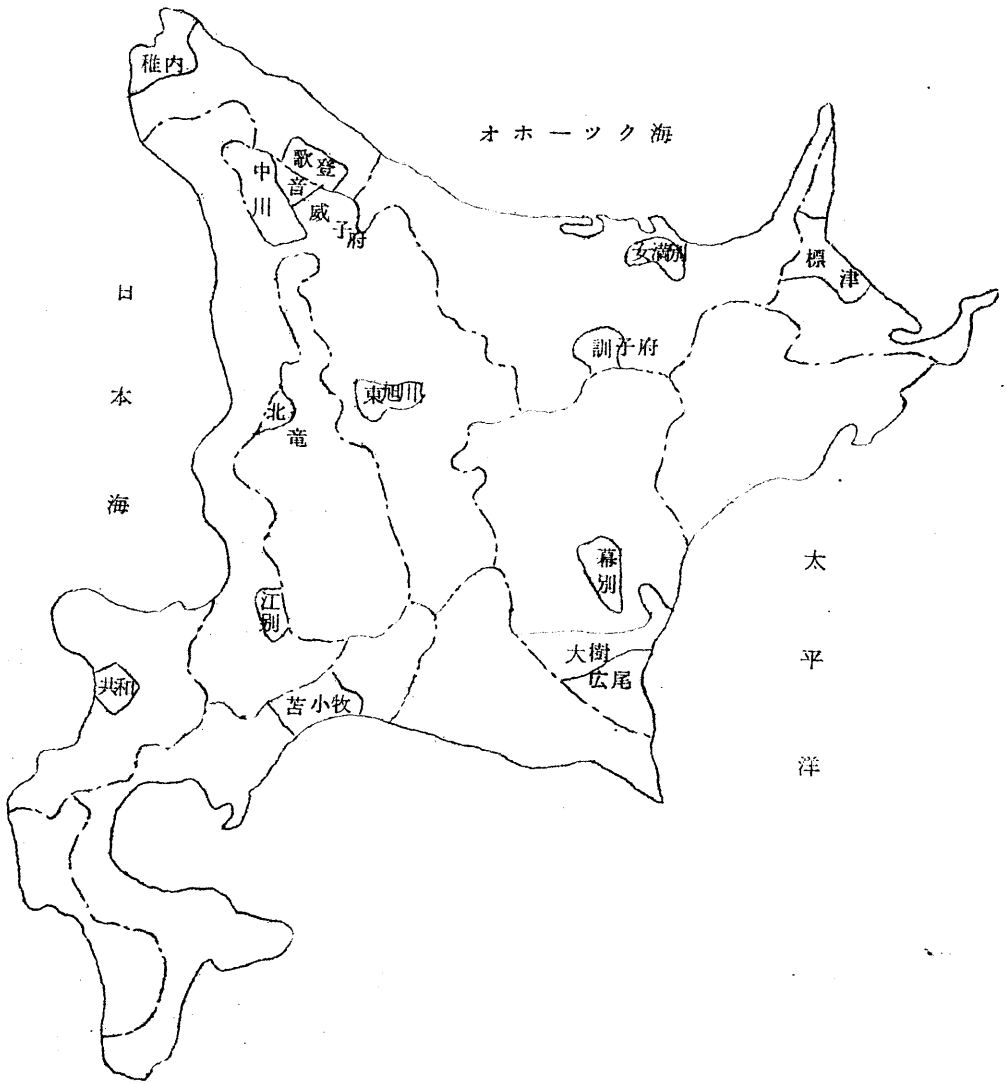
主に土壌分析を担当した職員

化学部	土壌改良科	研究職員	谷口未吉
"	"	"	小野清子

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当	農 地 面 積 (調 査 対 象 面 積)		既 調 査 面 積		本 年 度 調 査 面 積	
	郡 市 町 村 名	水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
共 和	岩内郡共和村	2,372.0	3,176.0	2,372.0	2,000.0	0	1,176.0
石狩川下流	江別市	3,456.0	4,767.0	0	3,000.0	3,456.0	1,767.0
空知郡北部	雨竜郡北竜町	1,891.0	897.0	1,800.0	0	91.0	897.0
上川中央	旭川市(東旭川町)	4,524.0	1,462.0	4,000.0	0	524.0	1,462.0
北川北部	中川郡音威子府村	64.0	1,590.0	0	1,000.0	64.0	590.0
上川北部	中川郡中川町	81.0	3,833.0	0	1,000.0	81.0	2,833.0
稚内	稚内市	0	2,736.0	0	1,000.0	0	1,736.0
頓別	枝幸郡歌登町	0	2,937.0	0	1,000.0	0	1,937.0
網走湖畔	網走郡女満別町	923.7	6,420.0	0	4,200.0	923.7	2,220.0
北見	常呂郡訓子府町	550.0	5,141.0	0	4,000.0	550.0	1,141.0
標津	標津郡標津町	0	2,740.0	0	1,000.0	0	1,740.0
日高山脈東山麓	広尾郡大樹町	0	1,000.0	0	500.0	0	500.0
日高山脈東山麓	広尾郡広尾町	0	4,850.0	0	2,000.0	0	2,850.0
十勝中部	中川郡幕別町	328.0	14,900.0	0	500.0	328.0	9,900.0
樽前山南山麓	苫小牧市	43.5	2,796.7	0	0	43.5	2,796.7
合 計		14,233.2	68,345.7	8,172.0	30,200.0	6,061.2	38,145.7

調査地区位置図



北見地域 訓子府町

1 地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 北海道常呂郡訓子府町

(2) 調査面積

郡市町村名	農地面積 (㌥)				調査対象面積 (㌥)				過年度調査面積 (㌥)			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
常呂郡 訓子府町	550	5141	0	5691	550	5141	0	5691	0	4000	0	4000

本年度調査面積 (㌥)				次年度以降調査計画面積 (㌥)			
水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
550	1141	0	1691	0	0	0	0

2) 気象

本地区は北見内陸地帯に位置するため、オホーツク海の影響は比較的少ないものと思われ、典型的な北見内陸気候を呈する。

一般に年間を通じて冷涼な気候であり、降雨量は年間800mmで北海道内において最も少ない特徴を有している。

このため初夏に霜害、或は低温に見舞われることがあり、荳類、水稻に大きな被害を与えることがある。又5～6月頃は発達したオホーツク海高気圧の停滞により西南の季節風が吹き続き一部の地帯に風害をもたらすことがある。秋期は一般に好天に恵まれるが、同時に気温が低下し、初霜が早く屢々荳類、水稻に大きな被害を与えている。

従つて、初夏の晩霜、低温或は強い季節風の襲来、時に盛夏の低温、秋期の好天と早霜等農作物に対する障害因子を常に包含している不安定な気象条件と云える。

道立訓子府農業試験場における気候観測成績は次の通りである。

(1958～1963の平均)

項目	月別	4	5	6	7	8	9	10	11
		平均	4.8	10.7	14.4	19.1	19.0	15.3	7.9
気温 (C)	最高平均	10.7	17.4	20.2	24.1	23.2	20.8	13.9	5.1
	最低平均	-1.1	3.9	8.6	14.1	15.0	9.7	1.9	-4.3
降水量 (mm)	平均	39.2	67.7	83.8	109.3	147.1	94.6	47.9	25.8
日照時数		198.3	187.5	163.8	156.1	121.9	161.5	170.8	146.1
降水日数		11	15	16	17	18	15	13	10

晩霜 5月23日、初霜 10月2日

雪初 11月 3日、雪終 5月1日

3) 土地条件

(1) 地形

本調査地区の中央を東西に常呂川が流れ、その兩岸は平坦な沖積地が形成されている。

この沖積面の北側は西から東に向つて緩かに傾斜する標高120~220mの段丘地が分布し、開折沢が常呂川から北西に向つて数多く入り込み、段丘上の地形を稍々波状にしている。

これに相対する南側も段丘地となつているが、北側台地より標高は稍々高く160~280mを示し、開折も相当進み、深い開折谷によつて刻まれた複雑な波状性傾斜地を呈しながら背後の丘陵性山地に連つている。

(2) 地質

昭和32年北海道地下資源調査所発行の20万分の1地質図によれば、常呂川北部に分布す段丘地並びに南側段丘地の大部分は下部洪積統に属し、主として流紋岩質熔結凝灰岩からなつている。南側段丘地の背後の丘陵性山地は先白亜系に属し、輝緑凝灰岩、スピライト質枕状熔岩、珪岩、粘板岩等を主とし、時に石灰岩を介在する。又南側段丘地の南部置戸町に接する一部は新第三紀呼人層に属し、珪藻質灰色泥岩、下部は白色凝灰岩からなり、その背後に位置する丘陵性山地は安山岩から構成されていることになつている。

しかしながら作物生育と関係の深い表層部分については基盤形成以後における微地形形成作用その他の影響によつて若干の相違が見られる。

即ち南側段丘地の東部は深く刻まれた開折谷に沿つて背後の丘陵性山地から主として珪岩、輝緑凝灰岩等が運ばれ、開折谷に連なる緩傾斜地及び谷底平地はこれらの風化物が主なる土壌母材となつている。

北側段丘地は若干固結しかかつた凝灰質のものが大部分を占めるが、概ね標高160~140m以下の東部は全然固結しない極めて堆積膨軟な軽石を多く含む凝灰質物からなつている。この軽石を含む堆積極めて膨軟な凝灰質物は標高160m以上の若干固結しかかつた地域の中で沢頭や侵蝕谷の周辺等に部分的に存在し、南側段丘地内にも一部分存在する。他は概ね地質図に準拠し得ると思われる。

(3) 侵蝕状況

傾斜地が多い南側段丘地帯は融雪時、降雨時に細流侵蝕が発生している。段丘地は一般に緩傾斜を有しているため、融雪時、集中豪雨時には細流侵蝕が発生し、軽度の表面侵蝕が発生するようである。

基盤が浮石を含む凝灰質の膨軟な堆積からなる地域では5~6月の乾燥期に季節風によつて風害を被る時がある。

(4) 交通

北側段丘地は概ね号線が発達している。南側段丘地は急傾斜面に遮られて号線の整備は不可能なため開折谷に沿つて蛇行状に道路が布設されているが、整備未了のところは諸々に見受けられ、不便を感じるところがある。

4) 土地利用及び営農状況

訓子府町全体の状況は次の通りである。(昭和38年調)

a) 経営面積(1戸当平均ha)

土地 総面積	田	畑	樹園地	永年 採草地	野草地	採草放牧 する山地	宅地 その他	山地
8.30	0.53	4.61	0	0.20	0.40	0.13	0.27	2.16

b) 作付面積(1戸当平均ha)

作物	水稻	小麦	えん麦	大豆	小豆	菜豆	その他 雑穀	馬鈴薯	甜菜	薄荷	飼料 作物	その他
面積	0.52	0.36	0.37	0.21	0.45	0.40	0.20	0.47	0.58	0.12	1.03	0.32

c) 耕種肥培慣行及び収量 (kg/10a)

作物	主な品種	元 肥				追 肥			収 量
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
小麦	北 栄 農林29号	4.5	7.5	3.4					360
えん麦	前進、北洋	3.7	6.0	2.0					270
大豆	北見白	2.0	7.0	1.5					180
菜豆	手亡、金時	2.3	5.5	4.5					180
馬鈴薯	農林1号 男爵	6.5	7.0	7.0					2,400
甜菜	G W 系	5.2 チリ硝石 3.8	12.0	5.0	2,000				2,500

d) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳 牛		豚	鶏
		成 牛	育成牛		
飼育戸数	926	438		430	508
飼育頭数	1,356	2,501		634	2,306
1戸当平均飼育頭数	1.4	2.6		0.65	2.4
飼養農家1戸当頭数	1.5	5.7		1.5	4.6

e) 農機具及び施設(全戸の総数)

種 類	数 量	種 類	数 量
トラクター	28	畜 舎	480
耕耘機	109	サイロ	366
モーター	71	尿溜場	174
農用発動機	42	堆肥場	124
動力噴霧機	90		
ミスト	151		
モーター	12		
動力脱穀機	387		
カッター	487		
チョツパー	79		
三、四輪車	47		

f) 労働の関係（1戸当人数）

家族人数	就労人数	季節雇	臨時雇
5,922 (6.1)	2,874 (3.0)	0	16,958 (17.5)

g) 専、兼業別農家戸数（戸）

総農家戸数	専業農家数	第1種兼業	第2種兼業
976	728	189	59

h) 経営面積規模別農家戸数

経営規模 (ha)	0.5 未満	0.5 ～1.0	1.0 ～2.0	2.0 ～3.0	3.0 ～5.0	5.0 ～7.5	7.5 ～10.0	10.0 ～15.0	15.0 以上
戸数	21	14	46	70	314	336	139	34	2

当町は北見内陸地帯の典型的な所謂混同経営形態を有している。1戸当の平均耕作面積は概ね5ha前後で、常呂川流域の沖積地帯は水田耕作が主となされ、台地は畑作が主体となっている。

乳牛飼養農家は総戸数の半数弱であるが、1戸当飼養頭数は6頭弱と少々高い数字を示している。本町は終戦後以来水田酪農の盛んなところとして注目されたところで、しばしば冷害凶作に見農われる稲作限界地域である本地帯の経営を水田酪農によつて安定せしめている。近年はこれに更に蔬菜等を取入れつつある。

一方台地の畑作地帯は水田地帯に追隨して乳牛の導入を計つて来ているが、有畜混同経営が概ね確立されているものは半数に満たない状態で、未だ安定規模確立への途上にある。元来この地帯の畑作は作付作物が多種に亘る傾向が強く、集約的経営の様相を帯びているが、周期的に繰り返す冷害凶作時に最も打撃を被る小豆、菜豆、えん豆等荳類の作付は依然として減少せず、価格変動の激しい葉草類の作付も捨て難いものようである。

このような投機的畑作経営の不安定さは今年の如き冷害凶作年には最も深刻なものとなるのは言をまたないところであるが、これを回避するための経営形態の転変整備等を一朝にして出来得ないところに問題がある。それは農家個々の経営に対する考え方と意欲の問題もさることながら、農家個々の経営経済の底の浅さと、貧困性に起因するものと考えられる。

目下農業構造改善事業の計画が樹立され、この事業の推進によつて自立経営規模の確立を期そうとしているが、経営経済の貧困性とそのことによつて波生する種々の問題点の中で如何に効率的に畑作振興を推進するかは当面の最も大きな問題と言えよう。

2 土壌の類型区分及び説明

1) 土壌統及び土壌区一覽

(1) 土壌統一覽

水 田

土壌統名	色 層 序	腐植層序	礫、砂礫層 礫を混在す る 砂 層	酸 化 沈積物	土 性		泥 炭	黒 泥	グライ	母 材 堆積様式
					表土	次 層				
清住中央	YR/YR	表層腐植層	あり	なし	粘質	粘質	-		-	非固結水成岩 水積(河成堆積)
美 郷	Y/YR	"	"	あり	"	砂質	-	-	-	" (")
穂波北	Y/Y	"	なし	"	"	粘質	-	8.0cm 以下	-	" (")
西富中央	Y/Y	表層腐植層なし	あり	なし	砂質	砂質	-	-	-	" (")
穂波中央	Y/Y	表層多腐植層	なし	あり	粘質	強粘質	-	4.5cm 以下	-	" (")
清住東	YR/	"	"	-	壤質	-	作土直 下から	全層	-	ヨシ、スゲ 集 積

畑

土壌統名	色層序	腐植層序	礫、砂礫層 礫を混在す る 砂 層	酸 化 沈積物	土 性		母材堆積様式
					表土	次 層	
常 盤	YR/YR	表層腐植層	あり	なし	粘質	壤質	残積固結火成岩
豊 坂	YR/Y	"	なし	あり	"	粘質	残積半固結水成岩
柏 丘 北	YR/Y	表層多腐植層	"	"	"	強粘質	洪積弱固結水成岩
北 栄 北	YR/YR	表層腐植層	"	なし	"	粘質	" "
柏 丘	YR/Y	表層多腐植層	"	あり	壤質	強粘質	" 非固結水成岩
春 日	YR/Y	表層腐植層	"	"	強粘質	壤質	" "
日 出	YR/YR	"	"	なし	壤質	粘質	" "
彌 生 西	YR/YR	"	"	"	粘質	"	" "
豊 坂 西	YR/YR	"	"	"	壤質	"	" "
豊 坂 中 央	YR/Y	"	"	あり	"	"	" "
中 里	YR/YR	"	あり	なし	"	壤質	水積(河成堆積)
西 富	YR/Y	表層腐植層なし	なし	"	粘質	"	" (")
大 谷 中 央	YR/YR	表層腐植層	"	"	"	強粘質	" (")
緑 丘	YR/YR	表層腐植層なし	あり	"	"	"	" (")
穂 波	YR/YR	表層腐植層	なし	"	"	"	" (")
彌 生 南	YR/Y	"	"	あり	"	壤質	" (")
安 住	YR/Y	"	"	"	壤質	"	" (")
大 清 谷	YR/Y	"	あり	"	粘質	粘質	水積(扇状堆土)
清 住 南	Y/Y	"	"	"	"	"	" (")
駒 里	YR/YR	"	なし	"	"	"	" (")
緑 丘 南	YR/YR	"	あり	"	"	"	崩積変成岩

(2) 土壤区一覽

水 田

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面 積 (ha)	備 考
清住中央-清住中央	IIlf	95	
実 郷-実 郷	III l In	56	
穂波北-穂波北	IIlfn	144	
西富中央- 1	III l Idf	119	
" - 2	III l Id	41	
" - 3	III dl Itfni	26	
穂波中央-穂波中央	IIldrfn	47	
清住東-清住東	IIlr	22	

畑

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面 積 (ha)	備 考
常盤統-常盤区	IItdgpfse	93	
豊坂統-豊坂区	III dw Itse	690	
柏丘北統-1区	III dw Itfnse	355	
" -2区	III w Itdfse	244	
北栄北統-北栄北区	IItdn	27	
柏丘統-柏丘区	III wf Itdne	1209	
春日統-2区	III w Itfnse	153	
日出統-1区	IItfse	275	
" -2区	IIfs	199	
" -3区	IIse	137	
彌生西統-1区	III e IIs	54	
" -2区	III e Itgfns	93	
豊坂西統-豊坂西区	III w Itse	54	
豊坂中央統-豊坂中央区	III w Itdfnse	39	
西富統-西富区	IItp	253	
中里統-4区	IItd	15	
大谷中央統-大谷中央区	IItdp	57	
緑丘統-緑丘区	II di Itgp	209	
穂波統-1区	IItdw	95	
" -2区	III w Itn	21	
彌生南統-彌生南区	III dwi Itf	51	
安住統-2区	III w Itn	15	
大谷統-大谷区	III twe Idgsi	460	
清住南統-1区	III we Itgs	57	
" -2区	III e Itws	15	
駒里統-駒里区	III w Iige	26	
緑丘南統-緑丘南区	III dwise Itgp	245	

2) 土壤統別説明

水 田

清 住 中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～19cmで腐植含量7%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度1のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度10以下で頗る疎、PH (H₂O) 5.6前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10～20cmで腐植含量2%内外、土性はCLが主である。礫は含まない。色は7.5YRで彩度4～6、明度4、細粒状、粒状の複合構造で発達程度は弱度のものが多い。細小孔に富む。斑状の酸化沈積物を含む。ち密度18～20で疎～中である。PH (H₂O) 5.9前後。下層へはおおむね漸変する。

第3層は厚さ20～30cmで腐植含量2%以下、土性はCLのものが多い。色は10YRで彩度3～6、明度4～6。脆弱な細塊状構造を呈するものが多く、細小孔に富む。ち密度17～24で疎～中。PH (H₂O) 5.8前後。下層との境界は不規則である。

第4層は20cm内外で腐植を欠き、土性はSのものが多い。色は2.5YR～5Yで彩度2～4、明度4～7。単粒構造で細小孔に富む。ち密度15前後で疎。下層との境界は波状明瞭である。

第5層は地表下65～80cm以下で、未風化円礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡訓子府町字清住 試坑%245

層	厚さ (cm)	特徴
第1層	0～18cm	腐植に富む黒(10YR 2/1)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度10で頗る疎、PH (H ₂ O) 5.6、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	18～30cm	腐植を含む褐(7.5YR 4/6)のCL、発達弱度の細粒状、粒状の複合構造、斑状の酸化沈積物を含む。ち密度20で中、PH (H ₂ O) 5.9、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	30～60cm	腐植を欠く黄褐(10YR 6/4)のSiCL、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む。ち密度24で中、PH (H ₂ O) 5.8、調査時の湿り半乾境界不規則。
第4層	60～78cm	腐植を欠く黄褐(2.5Y 4/4)のS、単粒構造で細孔に富む。ち密度15で疎、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
第5層	78cm以下	未風化円礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部 位 cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 腐 %	PH	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						H ₂ O	KCl
1	0～18	3.5	6.7	46.0	31.9	15.4	CL	4.16	0.32	13	7.2	5.6	4.3
2	18～30	4.0	6.5	48.2	24.9	20.4	CL	1.24	0.16	8	2.1	5.9	4.5
3	30～60	4.0	2.3	37.0	45.1	15.6	SiCL	-	-	-	-	5.8	4.4

層位	置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30CNH ₃ -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸 収係数	遊離酸 化鉄%
			CaO	MgO	K ₂ O		乾土	湿土	N	P ₂ O ₅		
1	2.50	25.0	8.2	1.6	0.4	33.0	11.2	0.8	11.2	13.1	9.05	0.67
2	2.00	21.2	10.3	2.2	1.0	48.4	4.1	1.4	4.1	0.4	11.80	1.25
3	1.25	21.2	12.5	3.3	1.4	59.0	-	-	-	7.7	8.17	1.20

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては穂波中央統、実郷統があるが、穂波中央統は50cm以内にグライ層が出現し、実郷統とは母材に相違が見られるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質物主体）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

常呂川流域の平地

C 気候

気候冷涼で、無霜期間短かくしばしば冷害凶作に見舞われる。年平均気温5.2℃、年間降水量758mm

D 植生及び利用状況

大部分水稲単作が行なわれている。

E 農業上の留意事項

土壌母材が所謂火山灰質で、堆積が比較的膨軟で且つ下層は砂層から礫層になっているため透水良好である。従つて漏水気味であり、養肥分が流亡溶脱し易いと考えられるから施肥についてはこの点を充分考慮する必要がある。

F 分布

常呂川の中流域に分布する。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
清住中央-清住中央	II 1 f

② 土壌区別説明

清住中央-清住中央

細粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度10以下で頗る疎、PH (H₂O) 5.6前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ20～30cmで腐植含量2%以下、土性はSLが主である。色は7.5YRで彩度4～6、明度4～5。発達弱度の細塊状構造かもしくは均質連結状で細孔に富む。ち密度15～20で疎～中、PH (H₂O) 6.2。下層へはおおむね漸変する。

第3層は厚さ25～30cmで腐植を欠き、土性はSLが主である。色は2.5Yで彩度2～4、明度4～7。単粒状もしくは発達弱度の細塊状構造で細小孔に富む。斑状の酸化沈積物に富む。ち密度12～13で疎。PH (H₂O) 6.3。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下おおむね70cm前後で未風化円礫からなる。70cm前後から湧水。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字実郷 試坑No 252

第1層	0～18cm	腐植を含む黒(5Y3/1)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度10以下で頗る疎、PH (H ₂ O) 5.6、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	18～45cm	腐植を欠く褐(7.5YR5/4)のSL、均質連結状、細孔に富む、ち密度18で疎、PH (H ₂ O) 6.2、調査時の湿り湿。境界漸変。
第3層	45～75cm	腐植を欠く灰褐(2.5Y7/2)のSL、単粒構造、細小孔含む。斑状の酸化沈積物に富む。ち密度12で疎、PH (H ₂ O) 6.3、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
第4層	75cm以下	未風化円礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	PH	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						H ₂ O	KCl
1	0～18	4.1	8.8	39.4	28.9	22.9	CL	2.90	0.27	11	5.0	5.6	4.4
2	18～45	2.7	37.2	46.6	10.0	6.2	SL	-	-	-	-	6.2	5.1
3	45～75	3.7	22.8	55.7	14.8	6.7	SL	-	-	-	-	6.3	4.7

層位	置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	30°C NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有 効 態 mg/100g		磷酸吸 収係数	遊離酸 化鉄%
			CaO	MgO	K ₂ O		乾 土	湿 土	N	P ₂ O ₅		
1	1.00	24.9	13.4	3.3	0.3	53.8	15.5	4.2	15.5	5.9	1.005	1.13
2	0.25	15.9	12.9	2.0	0.5	80.8	5.1	3.2	5.1	0.7	946	1.18
3	0.75	20.8	11.3	4.3	0.5	55.0	-	-	-	4.2	1.001	1.25

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては穂波中央統、清住東統、清住中央統等があるが、穂波中央統は50cm以内からグライ層が出現し、清住東統は集積であり、また清住中央統とは母材に相違が見られるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(赤色珪岩、石灰岩風化物が多い)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地 形

常呂川流域の平坦地

化鉄含量中庸でグライ化度弱く、還元化弱く水稻の根系障害はない。保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態はやや良好である。有効態窒素、磷酸、加里は中庸、石灰、苦土は多く存在する。特殊の障害性、災害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分は水稻単作が行なわれている。

C 地力保全上の問題点

土地改良の問題点はない。磷酸、加里を増施の方向に特つて行くこと、場合によつては窒素の分追肥を考慮すべきであろう。

D 分 布

常呂郡訓子府町字実郷の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

穂 波 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~17cmで腐植含量7%内外、土性はCLが主である。色は5Yで彩度1、明度3~5、細粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度10以下で頗る疎、PH(H₂O)5.4。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量5%内外、土性はCLが主である。色は10YR~2.5で彩度1~2、明度3~4。均質連結状で膜状、斑状の酸化沈積物を含む。ち密度16~18で疎、PH(H₂O)5.8、下層との境界は平坦判然である。

第3層は厚さ20~30cmで腐植含量2%以下、土性はSLが主である。色は5Y~7.5Yで彩度1~3、明度6~7、粒状構造または細塊状構造で発達程度は弱度である。斑状の酸化沈積物含む~富む。ち密度15~18で疎、PH(H₂O)5.3前後。下層との境界は波状明瞭のものが多い。

第4層は20~30cmで腐植含量2%以下の場合が多く、稀に5%内外の場合がある。色は5Yで彩度1~2、明度6~7、均質連結状、斑状の酸化沈積物に富む~頗る富む。ち密度18~22で疎~中、下層との境界は波状明瞭である。

第5層は地表下60~80cm以下で腐植含量2%以下、土性はL~CLである。色は7.5Y~10GYで彩度1~2、明度5~7、均質連結状でち密度20~24。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡訓子府町字穂波 試坑No.229

第1層	0~17cm	腐植に富む黒(5Y3/2)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度10以下で頗る疎、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	17~35cm	腐植に富む灰褐(10YR3/1)のCL、発達弱度の細塊状構造、膜状、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度18で疎、PH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、境界判然。
第3層	35~60cm	腐植を欠く灰(7.5Y6/1)のSL、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度18で疎、PH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。

第4層	60~80cm	腐植を欠く灰褐(5Y7/1)のCL(農学会報触減)、均質連結状、斑状の酸化沈積物に頗る富む、ち密度2.2で中、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
第5層	80cm以下	腐植を欠く灰(2.5GY6/1)のC(農学会報触減)、均質連結状、ち密度2.4で密、調査時の湿り湿。湯水90cm。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						H ₂ O	KCl
1	0~17	4.4	6.2	39.6	35.4	18.8	CL	4.11	0.33	12	7.1	5.4	4.3
2	17~35	5.0	3.6	33.5	38.0	24.9	CL	3.12	0.28	11	5.4	5.8	4.6
3	35~60	3.3	11.3	65.4	15.5	7.8	SL	-	-	-	-	5.3	3.9

層位	置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	30CNH ₃ -N 発生量 mg/100g		有 効 態 mg/100g		磷酸吸 収係数	遊離酸 化鉄%
			CaO	MgO	K ₂ O		乾	土湿	N	P ₂ O ₅		
1	1.50	19.4	8.3	1.3	0.4	42.8	19.1	5.49	19.1	8.6	774	0.26
2	0.75	22.3	11.4	2.3	0.6	51.0	14.2	14.4	14.2	3.4	862	1.11
3	9.00	13.9	4.9	2.1	0.4	35.5	-	-	-	tr	620	0.93

A-2 他の土壌との関係

本統に隣接または類似する統としては穂波中央統、西富中央統がある。穂波中央統とはグライ層の出現位置、腐植層序が異り、西富中央統とは腐植層序、グライ層、砂礫層の有無の相違により区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(凝灰質混)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積、一部扇状堆積)

B 地 形

常呂川流域の略平坦地。

C 気 候

気候冷涼で、無霜期間短く、しばしば冷害凶作に見舞われる。年平均気温5.2℃、年間降水量758mm。

D 植生及び利用状況

大部分は水稻が単作されているが、一部は畑地になっている。

E 農業上の留意事項

初夏の気温低く、灌漑水の温度も低いため初期生育が悪いので、表層施肥重点による初期生育の促進が必要である。施肥面では磷酸、加里の増施が望ましい。

F 分 布

常呂川流域の平坦部から台地に連がる接触部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~18cmで腐植含量4~7%、土性はSL~Lで、CLの場合もある。色は2.5Yで彩度2、明度2~4。風化、半風化細小円礫を含む場合がある。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度1.0以下で疎、PH(H₂O) 5.5~5.7。下層との境界は平坦明瞭。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量2%以下、土性はSLが主でCLの場合がある。色は10YR~5Yで彩度1~2、明度4~7、細塊状構造で発達程度は弱度もしくは均質連結状である。細孔に富む。半風化細小円礫を含む場合があり、膜状の酸化沈積物を含む場合がある。ち密度1.8~2.0で中、PH(H₂O) 5.5~6.3、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ20cm内外、地表下20~45cmの場合は未風化円礫層である。腐植を欠き、単粒構造で細孔に富む、ち密度1.5前後で中、PH(H₂O) 6.4、下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下35~50cmで、未風化円礫層になっている。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字西富 試坑No.222

第1層	0~18cm	腐植を含む灰褐色(5Y4/2)のSL、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.0以下で疎、PH(H ₂ O) 5.7、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	18~30cm	腐植を欠く灰褐色(5Y7/1)のSL、発達弱度の細塊状構造細孔に富む、斑状の酸化沈積物に富む、ち密度1.8で中、PH(H ₂ O) 6.3、調査時の湿り半乾、境界漸変。
第3層	30~50cm	腐植を欠く黄褐色(2.5Y5/4)のLS、単粒構造で細小孔に富む、ち密度1.6で中、PH(H ₂ O) 6.4。調査時の湿り湿、境界波状
第4層	50cm以下	未風化円礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	PH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl
1	0~18	2.2	14.3	56.5	17.6	11.6	SL	2.13	0.22	1.0	3.7	5.7	4.6
2	18~30	1.8	14.4	65.3	12.2	8.1	SL	-	-	-	-	6.3	5.1
3	30~50	2.0	15.5	69.9	7.5	7.1	LS	-	-	-	-	6.4	4.9

層位	置換酸 度 Y	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	30℃NH ₃ -N 発生量 mg/100g		有 効 態 mg/100g		磷 酸 吸 収 係 数	遊離酸 化鉄%
			CaO	MgO	K ₂ O		乾 土	湿 土	N	P ₂ O ₅		
1	0.50	14.9	9.4	2.3	1.0	63.1	11.9	9.00	11.9	3.9	617	
2	0.25	18.1	8.6	2.5	1.3	47.4	5.4	1.26	5.4	8.6	611	
3	0.25	13.9	8.4	2.3	1.3	60.6	-	-	-	4.1	596	

A-1 他の土壤統との関係

本統に隣接または類似する統としては穂波北統、清住中央統があるが、穂波北統は礫層がなく、清住中央統は礫層の出現が地表下70~80cm以下にあるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

D 分 布

常呂郡訓子府町字高園、実郷。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月1日

穂 波 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~18cmで腐植含量12%内外、土性はCLが主である。色は5Y~7.5Yで彩度1~2、明度2~3。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度10以下で疎、PH (H₂O) 5.8前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで腐植含量10%以上の場合がある。色は2.5Y~5Yで彩度1~2、明度2~7。粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。斑状の酸化沈積物を含む。ち密度15~23で中、PH (H₂O) 5.1前後。下層との境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ20~30cmで腐植を欠き、土性はSiCである。色は2.5Y~7.5Yで彩度2、明度4~7。均質連結状で斑状の酸化沈積物を含む。ち密度19~24で中、PH (H₂O) 5.1前後。下層との境界は判然としている。

第4層は厚さ10~20cmで腐植を欠き、土性はSiCが主である。色は5Y~2.5GYで彩度1~2、明度7。均質連結状、斑状の酸化沈積物を含む。ち密度24~29で甚だ密で非有効土層の場合が多い。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡訓子府町字穂波 試坑No237

第1層	0~15cm	腐植に頗る富む黒色(5Y2/1)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度10以下で疎、PH (H ₂ O) 5.8、調査時の湿り潤、境界平坦明瞭。
第2層	15~23cm	腐植に頗る富む黒色(5Y2/2)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度15で中、PH (H ₂ O) 5.8、調査時の湿り潤、境界波状明瞭。
第3層	23~47cm	腐植を欠く灰色(7.5Y7/2)のSiC、均質連結状、斑状の酸化沈積物を含む、ち密度24で中、PH (H ₂ O) 5.1、調査時の湿り湿、境界平坦判然
第4層	47cm~	腐植を欠く灰色(2.5GY7/1)のSiC、均質連結状、ち密度29前後で甚だ密、調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	PH	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						H ₂ O	KCl
1	0~23	4.8	5.6	37.0	39.2	18.2	CL	7.13	0.51	1.4	12.3	5.8	4.7
2	23~47	5.4	1.3	12.6	53.1	33.0	SiC	-	-	-	-	5.1	3.9
3	47~67	5.7	1.0	9.8	60.9	28.3	SiC	-	-	-	-	4.9	3.6

層位	置換酸 度 Y ₁	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	30°C NH ₃ -N mg/100g		有 効 態 mg/100g		磷酸吸 収係数	遊離酸 化鉄%
			CaO	MgO	K ₂ O		乾 土	湿 土	N	P ₂ O ₅		
1	0.75	26.0	11.4	1.3	0.3	43.9	24.7	7.02	24.7	6.1	1.172	0.82
2	5.25	19.0	5.4	2.7	0.3	28.9	1.8	0.81	1.8	3.3	685	0.80
3	8.00	14.0	4.8	3.2	0.3	34.3	-	-	-	2.4	602	0.64

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては西富中央統、穂波北統、清住中央統等があるが、西富中央統は礫層が出現し、グライ層がない。穂波北統は下層が甚密でなく、清住中央統は火山性の母材からなり乾田なのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩（凝灰岩質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地 形

常呂川中流域の平坦地

C 気 候

気候冷涼で、無霜期間短くしばしば冷害凶作に見舞われる。年平均気温 5.2℃、年間降水量 758mm。

D 植生及び利用状況

大部分は水稻が単作されている。

E 農業上の留意事項

下層堅密で透水悪く、排水不良を呈するから暗渠排水の完備が必要である。初夏の気温低く、且つ排水不良のため地温上昇は緩慢で水稻の初期生育が悪い傾向にあるから、初期生育を促進する施肥対策が必要であり、また秋期の早霜による被害もあるのでこの対策も必要であろう。

F 分 布

常呂川中流域の平坦地に分布。

調査及び記載責任者 高 尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

昭和 41 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
穂波中央-穂波中央	IIrtdfn

② 土壌別説明

清住中央 - 清住中央

第1層は厚さ13～15cmで腐植含量15%内外、土性はLが主である。色は7.5YR～2.5Yで彩度1～2、明度1～3。ち密度1.0以下で疎、PH (H₂O) 5.8前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15～20cmで、スゲ、ヨシからなる分解やや良好な低位泥炭。色は5YR～10YRで彩度3～4、明度2～3である。下層との境界は判然である。

第3層は20～30cmでスゲ、ヨシからなる分解中度の低位泥炭。色は5YR～7.5YRで彩度1～3、明度2～3である。PH (H₂O) 5.0前後。下層との境界は判然としている。

第4層は地表下おおむね60cm以下で、ヨシ、スゲ、ハンノキを主材とする低位泥炭層。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字清住 試坑№249

第1層	0～15cm	腐植に頗る富む褐色(7.5YR 3/2)のL、構造なく、ち密度1.0以下で疎、PH (H ₂ O) 5.8調査の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	15～35cm	黒色(5YR 2/4)の泥炭、分解良、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第3層	35～60cm	褐色(7.5YR 3/3)の泥炭、分解中、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第4層	60cm以下	灰褐(5YR 6/2)の泥炭、分解やや不良、調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	PH	
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						H ₂ O	KCl
1	0～15	3.6	18.6	43.6	26.2	11.6	L	9.04	0.61	15	15.6	5.8	4.8
2	15～35	8.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5.3	4.3
3	35～60	5.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5.0	3.9

層位	置換性 度 Y ₁	塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	30CNH ₃ -N 発生量 mg/100g		有 効 態 mg/100g		磷酸吸 収係数	遊離酸 化鉄%
			CaO	MgO	K ₂ O		乾 土	湿 土	N	P ₂ O ₅		
1	0.75	22.5	13.1	2.5	0.2	58.3	22.6	9.4	2.6	25.9	539	0.41
2	1.75	—	23.7	5.0	0.6	—	28.9	4.2	28.9	0.4	1,789	0.58
3	6.00	—	4.4	1.6	0.2	—	—	—	—	0.8	881	0.38

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては穂波中央統があるが、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 ヨシ、スゲ、ハンノキ

A-4 堆積様式 集積(低位泥炭)

B 地 形

常呂川中流域の平坦地

C 気 候

気候冷涼で、無霜期間短かくしばしば冷害凶作をうける。年平均気温5.2℃、年間降水量758mm。

D 植生及び利用状況

大部分は水稻が単作され、一部は畑作が行なわれている。

E 農業上の留意事項

漏水が極めて大きく、鉍物質に不足しているので鉍質土壌の客土が必要である。気象的条件とも関

C 地力保全上の問題点

遊離酸化鉄が少なく、鉍物質に不足しているから鉍質土壌の客入が必要である。稲作限界地帯の泥炭地水田であるため初期生育の不振、生育遅延が一般的であるから健苗の育成、磷酸、加里の増施、表層施肥の実施等が必要である。

D 分 布

常呂郡訓子府町字清住、穂波

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

常 盤 統

(1) 土製統の概説

A 土製統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は概ね1.6cm内外で、腐植含量は4%前後、土性はCLである。色は10YRで彩度4、明度3、風化、腐朽半角礫を含み、発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度10前後で頗る疎である。PH (H₂O) 5.9~6.1。下層との境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ1.4cm内外で、腐植含量1.5%、土性はLである。色は7.5YRで彩度6、明度4、風化、腐朽半角礫に富み、発達弱度の細塊状構造を呈し、細孔に富む。ち密度18~20で中である。PH (H₂O) は5.3前後。下層との境界は波状漸変する。

第3層は厚さ2.0cm内外で腐植を含まず、土性はLである。色は10YRで彩度4、明度4、風化腐朽半角、角礫に富む。発達弱度の細塊状構造を呈し、細孔を含む。

ち密度20前後で中である。PH (H₂O) 5.2前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下概ね5.5cm以下で、半風化、風化礫層からなっている。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡訓子府町常盤 試坑No.187

第1層	0~2.1cm	腐植に富む暗褐色(10YR 3/4)のCL、風化、腐朽半角礫を含み、発達弱度の細粒状構造。ち密度10で頗る疎。PH (H ₂ O) 6.1、調査時の湿り半乾、層界波状明瞭。
第2層	2.1~3.5cm	腐植を含む暗黄褐色(7.5YR 4/6)のL、風化、腐朽半角礫に富む。発達弱度の細塊状構造、細孔に富む。ち密度18~20で中。PH (H ₂ O) 5.3、調査時の湿り半乾、層界波状漸変。
第3層	3.5~5.5cm	腐植を欠く褐色(10YR 4/4)のL、風化、腐朽半角、角礫に富む。発達弱度の細塊状構造、細孔を含む。ち密度20で中、PH (H ₂ O) 5.2。調査時の湿り湿。層界波状漸変
第4層	5.5cm~	半風化、風化礫層。ち密度20~25で密。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

訓子府町常盤 試坑No.187

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~2.1	4.9	21.0	34.3	26.9	17.8	CL	89.2	2.62	2.42	0.20	1.2
2	2.1~3.5	6.8	27.1	32.0	29.0	11.9	L	105.7	2.72	0.94	0.09	1.0
3	3.5~5.5	9.0	27.5	32.7	27.4	12.4	L	-	-	-	-	-

層位	腐植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸 収係数	有効態燐酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	3.96	6.1	5.0	0.38	17.2	1.17	3.0	2.3	6.81	878	8.8
2	1.52	5.3	4.1	5.25	18.1	7.5	3.5	1.0	4.15	1,006	2.1
3	-	5.2	4.0	5.75	24.3	12.3	6.0	0.5	50.7	1,219	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては豊坂統、緑丘南統、豊坂西統等があるが、豊坂統、緑丘南統とは母材が異り、豊坂西統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩(安山岩)

A-4 堆積様式 残 積

B 地 形

標高300m内外の波状性傾斜を有する台地。

C 気 候

年平均気温5.2℃、年降水量758.3mm、無霜期間131日前後。気候冷涼で、無霜期間短く、しばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

台地の頂部にあたる緩傾斜地は耕地に利用され、豆類、ビート、馬鈴薯、小麦その他の作物が作付されている。傾斜地は採草放牧地或は林地として利用され、カラマツ植木もしくは自然林になっている。

E 農業上の留意事項

本統に属する地区の農家は極く少なく、急傾斜に遮ぎられて農道から住宅及び畑地に至る間の交通状況が不良である。従つて乳牛等の導入も困難性が伴い、土壌条件等に由来する問題以外の所謂技術以前の問題があり、このことの検討がむしろ先決と考えられる。

F 分 布

常呂郡訓子府町字常盤の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
常 盤 - 常 盤	IItdgpfe

② 土壌区別説明

常 盤 統 - 常 盤 区

示性分級式

土壌	表土	有効土層	耕土	表土	表土	表土	土	透	保	湿	自然	自	保	固	土	養	置	換	性	効	障	酸	化	物	傾	自	傾	人	侵	耐	耐				
産力	の	層	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	害	障	障	傾	傾	方	斜	向	斜	度	性	性			
能性	厚	深	含	難	土	着	硬	乾		沃		沃	状	豊	含	"	"	"	度	性	性	性	性	斜	向	斜	度	性	性	性	性	性	性		
等	級	さ	さ	量	易	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
e · w · s ·																																			
II	t	d	g	p		w		f		n		i		s		e																			
II	II	II	II	II	2	2	1	I	1	2	1	II	2	2	1	I	1	1	1	2	1	I	1	1	II	2	n	-	I	2	2	2	2	2	
簡略分級式 IItdgpfe																																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は常盤統に属する。表土の厚さは20cm前後、有効土層は55cm前後で中庸もしくは稍稍浅い。

作土は中粒質で粘着性中庸、農具を使うに当つて僅かに抵抗を感じる。表土は礫を含むが、腐朽礫が多く耕作に対する支障は余りない。しかし傾斜地は巨礫が点在するところがある。最下層は腐朽、風化礫層になっている。極端な排水不良は呈さず、一般に排水は中庸で、過湿、過乾のおそれはない。

作土は石灰、苦土、加里含量多く、磷酸含量は中庸で、養分は稍々豊富である。下層の養分は中庸である。酸性はあまり呈さない。特殊の障害性は存在しない。緩傾斜～傾斜を有するので、水蝕のおそれがある。

本地区は標高高く、傾斜の急な斜面は巨礫が点在して農耕に不適なところが多く存在し、頂部の緩傾斜地が利用されているに過ぎず、その面積も狭少で、経営的には検討を要するところである。

B 植生及び利用状況

台地頂部の緩傾斜地は畑地とされているが、他は採草放牧地或は林地になっている。

C 地力保全上の問題点

標高稍々高く、この地域では独立台地を形成しているため風当りが強く、緩傾斜～傾斜を有し侵蝕のおそれがあるので、防風林、保全耕作の必要が認められる。しかし本地区の耕作利用面積が狭少で且つ農家も少なく、加えて、地理的に不便で、農道の設置がなく、用水に不便を来す等、農業立地条件が劣等であるから、土壌的な問題に優先してこれらの点が検討されなければならないと考える。

D 分 布

常呂郡訓子府町字常盤

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

豊 坂 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量5~7%、土性はCLである。色は10YRで彩度1~3、明度1~3。礫なく、発達弱度の細粒状構造、細小孔に富む、ち密度10~15で疎である。PH(H₂O)5.6~6.3。下層との境界は直線明瞭である(火山灰を混じている)。

第2層は厚さ15cm内外、腐植含量4%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度4~6、明度4~7。礫なく、発達弱度の細塊状、塊状構造を呈し、細孔を含む。ち密度18~21で疎~中である。pH(H₂O)5.9前後、下層との境界は波状漸変する。尙本層は弱いグライを呈する場合が多い。

第3層は厚さ10~20cmで腐植を欠き、土性はLが主である。色は2.5Y~5Yで彩度2~4、明度7のものが多い。風乾細小礫(浮石)を含み、発達弱度の塊状構造、もしくは大角柱構造を呈し、細、中孔を僅かに含む。ち密度25前後で密である。pH(H₂O)6.3。斑状の酸化沈積物を含み、疑似グライを呈する。下層との境界は波状稍々明瞭である。

第4層は地表下概ね45~60cm以上で、灰褐色もしくは淡黄灰色の半固結基岩層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡訓子府町字豊坂 試坑No.198

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐色(10YR 2/3)のCL、礫なく、発達弱度の細粒状構造、細孔に富む、ち密度12で疎、PH(H ₂ O)6.3、調査時の湿り半乾、層界直線明瞭。
第2層	20~35cm	腐植を含む褐色(10YR 4/4)のCL、礫なく、発達弱度の細塊状、塊状構造、細孔を含む、ち密度18で中、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り湿、層界波状漸変。
第3層	35~57cm	腐植を欠く灰黄褐色(2.5Y 7/4)のL、風化細小礫(浮石)を含み、発達弱度の塊状構造、細中孔を僅かに含む。ち密度25で密、PH(H ₂ O)6.3、斑状の鉄銹斑を含み、疑似グライを呈す。層界波状稍々明瞭。
第4層	57cm~	灰褐色の半固結基岩層

代 表 的 断 面 分 析 成 績

訓子府町字豊坂 試坑No.198

層位	深 さ cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~20	3.9	11.2	41.4	29.7	17.6	CL	83.1	2.58	3.25	0.23	14
2	20~35	4.1	17.8	37.1	27.1	18.0	CL	112.9	2.73	0.63	0.07	9
3	35~57	3.5	18.3	42.0	30.0	9.6	L	-	-	-	-	-
4	57~	5.1	13.2	41.4	29.5	15.9	CL	-	-	-	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.37	6.3	5.2	0.25	17.0	12.3	1.4	0.5	72.6	696	8.4
2	4.03	5.9	4.4	1.00	10.1	4.5	2.6	0.4	45.0	686	2.1
3	—	6.3	4.5	0.75	9.5	4.0	3.1	0.5	41.8	481	—
4	—	6.5	4.6	0.50	11.8	5.4	4.7	0.5	45.8	672	—

A-1 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、豊坂西統、豊坂中央統、柏丘統等が、豊坂西、豊坂中央統とは母材、堆積様式が異り、柏丘統とは湿性の程度（停滞水によるグライの強弱）が異なるので区分される。

A-3 母材 半固結水成岩（三紀凝灰岩）

A-4 堆積様式 残積性

B 地形

標高200m内外の段丘地で、3°前後の緩かな波状性傾斜を有するところが多い。

C 気候

年平均気温5.2℃、年降水量758.3mm、無霜期間131日前後、無霜期間短く、しばしば冷害凶作に見られる。

D 植生及び利用状況

殆んど耕地に利用され、小麦、荳類、馬鈴薯、ビート、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層が甚密なため停滞水による排水不良を呈する地帯であり、大部分暗渠排水の実施によつて停滞水の排除がなされているが、透水緩慢なため必ずしも良好とは云い難く。一時的には少々過湿となるから、排水効果を更に高めるため吸水渠の補設或は心土破砕等が必要と思われる。

融雪時、集中豪雨には細流侵蝕等が見られるので、このようなところは緑作帯等の設置が望ましい。

F 分布

常呂郡訓子府町字豊坂の大部分及び大谷、緑丘、開盛の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

② 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
豊 坂 - 豊 坂	III _{dw} II _{tse}

② 土壌区別説明

豊 坂 - 豊 坂

柏 丘 北 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cm、腐植含量12~14%内外、土性はCLである。色は10YR~2.5Yで彩度0~3、明度1~2。礫なく、発達弱度の細粒状構造（脆弱）のものが多い。ち密度8~10で頗る疎、PH(H₂O)5.5~5.9。下層との境界は直線明瞭である。（作土層）。

第2層は厚さ15cm前後、腐植含量3%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3~6明度3~6。風化細礫（浮石）を含み、発達弱度の細塊状構造（脆弱）を呈し、細孔を含む。微弱なグライを呈するところがある。ち密度18前後で中、pH(H₂O)5.2前後、下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ10~20cmで、腐植を欠き、土性はL~CLである。色は5Y~7.5Yで彩度1~2、明度7~8のものが多い。風化細礫（浮石）を含み、発達弱度の塊状構造（脆弱）もしくは大角柱構造を呈す。斑状の酸化沈積物に含み~富み、凝似グライを呈す。ち密度25~28で密である。PH(H₂O)6.3前後。下層との境界は波状漸変する。

第4層は地表下40~55cmで、腐植を欠き、土性はLが主である。色は5~7.5Yで彩度1~2明度7~8である。均質連結状構造を呈し、ち密度29~30以上で甚だ密である。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字柏丘 試坑№57

第1層	0~25cm	腐植に頗る富む黒色(2.5Y2/0)のCL、礫なく、発達弱度の細粒状構造、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。層界波状稍々明瞭。
第2層	25~40cm	腐植を僅かに含む黄褐色(10YR5/4)のLiC、風化細礫(浮石)を含み、発達弱度の細塊状構造と大角柱状構造。細孔を含む、ち密度14で疎、pH(H ₂ O)5.2、微弱なグライを呈す。調査時の湿り湿。層界波状漸変。
第3層	40~50cm	腐植を欠く淡黄灰色(7.5Y8/1)のL、風化細礫(浮石)を含み、均質連結状構造、ち密度25で密、pH(H ₂ O)6.3、斑状の酸化沈積物を含み凝似グライを呈する。層界波状漸変。
第4層	50cm~	腐植を欠く淡黄灰(7.5Y8/1)のL、風化細礫(浮石)を含むち密度30以上で甚密。

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町字柏丘 試坑№57

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~25	5.4	6.8	43.9	33.2	16.1	CL	80.0	2.25	7.20	0.48	15
2	25~40	5.9	8.6	28.0	33.7	29.6	LiC	86.9	2.63	1.80	0.19	10
3	40~50	2.4	20.5	39.5	27.5	12.5	L	-	-	-	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	11.7	5.5	4.5	1.50	28.9	13.0	0.9	0.3	45.1	1.053	16.3
2	2.9	5.2	4.1	11.50	18.6	3.1	1.2	0.4	16.6	1.311	2.0
3	—	6.4	4.5	0.50	8.5	3.1	1.6	0.4	35.6	3.78	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては柏丘統、日出統、豊坂統等がある。豊坂統は擬似グライ土に属する略々共通的な断面形態を有するが、豊坂統の基盤層がより固く、地質図によれば基盤の堆積年代が異なるので区分した。柏丘統とはグライの強弱と湿性の程度が異なり、日出統とは基盤の堆積状態並びに乾湿が相違するので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高160～220mの段丘地で、全般に緩かな傾斜を有するが一部は開折沢の侵入によつて波状性緩傾斜を呈する。

C 気候

年平均気温5.2℃、年降水量758.3mm、無霜期間131日前後、気候冷涼で無霜期間短く、しばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、小麦、苧類、ビート、馬鈴薯、牧草、ハツカ、藜草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層が堅密なため停滞水によつて排水不良を呈する地帯である。大部分暗渠排水の実施によつて土地の排水が計られているが、埋設土管が下部のため過剰水の排除は少々緩慢にしか進行しない傾向があり、排水効果は必ずしも充分とは言ひ難い。従つて排水効果を一層高めるためには吸水渠の増設或は、心土破碎等の方策が必要と思われる。緩傾斜地は融雪時、降雨時に水蝕発生のおそれがあるから防止対策が必要である。又、経営と結びついた牧草畑の拡大も望ましいものである。局部的に侵蝕の激しいところは下層土が作土に相当混入しているので有機物の増施等も必要であろう。

施肥面では加里、磷酸に重点をおくことが望ましい（北見農試試験成績による）。

F 分布

常呂郡訓子府町字柏丘、北栄の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
柏 丘 北 一 区	III _d w II _t fnse
柏 丘 北 二 区	III _w II _t dfse

② 土壌区別説明

北 栄 北 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で、腐植含量8%前後、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1~3、明度2である。礫なく、発達弱度の細粒状構造を呈し、細孔を含む。ち密度8~20で頗る疎或は中である。pH (H₂O) 5.9~6.2下層との境界は直線稍々明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外、腐植含量2.5%前後、土性はCLが主である。色は10YRで彩度6、明度4である。礫なく、発達中度の細塊状構造を呈し、細孔に頗る富む。ち密度19で中、PH (H₂O) 5.8前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ15~20cm内外、腐植含量1%前後、土性はCLが主である。色は10YR~7.5YRで彩度4~6、明度4である。礫なく、発達中度の細塊状構造を呈し、細小孔に富む。ち密度18で中、PH (H₂O) 5.9前後、下層との境界は波状漸変する。

第4層は厚さ15~20cmで、腐植を欠き、土性はCLが主である。色は10YRで彩度5~6、明度4~5である。礫なく、均質連結状構造を呈し、ち密度23で密、PH (H₂O) 前後。下層との境界は漸変する。

第5層は地表下概ね60~70cm以下で、腐植を欠き土性はLである。色は10YR~7.5YRで彩度6、明度4~5である。均質連結状構造を呈し、ち密度25~31で密~甚密である。

代 地 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡訓子府町字北栄 試坑No.29

第1層	0~15cm	腐植に富む黒色(10YR 2/1)のCL。礫なく、発達弱度の細粒状構造細孔を含む。ち密度20で中、pH (H ₂ O) 6.0。調査時の湿り半乾、層界直線稍々明瞭
第2層	15~25cm	腐植を含む褐色(10YR 4/6)のCL。礫なく、発達中度の細塊状構造細小孔に頗る富む。ち密度19で中、pH (H ₂ O) 5.8。調査時の湿り半乾。層界波状漸変。
第2層	25~40cm	腐植を含む褐色(10YR 4/4)のCL、礫なく、発達中度の細塊状構造細孔に富む。ち密度18で疎。pH (H ₂ O) 5.9。調査時の湿り半乾、層界波状漸変。
第4層	40~62cm	腐植を欠く褐色(10YR 4/6)のCL、礫なく均質連結状構造、ち密度25で密。pH (H ₂ O) 6.3。調査時の湿り半乾、層界漸変。
第5層	62cm~	腐植を欠く黄褐色(10YR 5/6)のL、礫なく均質連結状構造、割目あり、ち密度31で実密。

代表的断面分析成績

常呂郡訓子府町字北栄 試坑No.29

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~14	4.9	8.9	41.4	30.2	19.5	CL	96.6	2.47	5.04	0.36	14
2	14~25	5.2	11.9	30.0	39.2	18.9	CL	111.5	2.60	1.55	0.14	11
3	25~40	4.0	13.3	36.6	30.7	19.4	CL	111.5	2.67	0.75	0.08	9
4	40~	4.8	11.7	42.8	29.0	16.4	CL	-	-	-	-	-

層位	腐 植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数	有 効 態 燐 酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	8.3	6.0	4.8	0.25	25.8	16.6	2.3	0.3	64.2	971	3.5
2	2.5	5.8	4.4	1.50	16.6	7.5	3.0	1.1	45.4	928	2.0
3	1.2	5.9	4.4	1.50	13.7	5.3	3.8	1.3	38.8	792	-
4	-	6.3	4.6	0.50	10.2	4.6	2.9	0.7	45.1	637	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては柏丘統、日出統があるが、柏丘統とは停滞水による類似グライ層の有無により、日出統とは母材の差異により本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形

標高180~220mの段丘地で、緩かな傾斜を有する。

C 気 候

年平均5.2℃、年降水量758.3mm、無霜期間131日前後。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、荳類、馬鈴薯、ビート、牧草等が作付られている。

E 農業上の留意事項

当地域の段丘地土壌の中では比較的良好な土壌である。有機物の投入を計りながら逐次深耕して行けば一層生産を高めることが期待出来る。

F 分 布

常呂郡訓子府町字柏丘、北栄の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
北 栄 北-北 栄 北	II tdn

弱度の細粒状構造を呈し、細孔に富む。ち密度8~15で頗る疎~疎である pH (H₂O) 5.2~5.6。下層との境界は直線少々明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量6~7%、土性はLが主である。色は10YR~2.5Yで彩度4~8、明度3~5である。礫を含まず、発達弱度の細塊状構造(脆弱)を呈し、細孔を含む。ち密度15~20で疎~中である。

pH (H₂O) 5.0~5.5。斑状の酸化沈積物を含み、凝似グライを呈するところがある。下層との境界は波状漸変する。

第3層は厚さ10~25cmで腐植を欠き、土性はLが主である。色は10YR~2.5Yで彩度2~6、明度6~8のものが多い。風化細礫(浮石)を含み、発達弱度の細塊状構造(脆弱)もしくは均質連結状構造を呈し、細孔を含む。

ち密度18~24で疎~中である。pH (H₂O) 5.2~5.8。斑状の酸化沈積物を含む~富み、凝似グライもしくはグライを呈する。下層との境界は波状漸変するものが多い。

第4層は地表下50~70cmで腐植を欠き、土性はL~CLである。色は5Y~7.5Yで彩度1~2、明度7~8である。風化細礫(浮石)を含み、均質連結状構造を呈す。ち密度20~29で中~密である。凝似グライもしくはグライを呈するところが多い。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字柏丘 試坑No.48

第1層	0~20cm	腐植に頗る富む黒色 (N1/0) のL、礫なく、発達弱度の細粒状構造、細孔に富む。ち密度15で疎。pH (H ₂ O) 5.3。調査時の湿り湿。層界直線明瞭。
第2層	20~35cm	腐植を含む暗褐色 (10YR5/4) のL、礫なく、発達弱度の塊状構造もしくは均質連結状を呈し、細孔を含む。ち密度15で疎、pH (H ₂ O) 5.5。斑状の酸化沈積物を含む。調査時の湿り湿。層界波状漸変。
第3層	35~60cm	腐植を欠く灰黄橙色 (10YR7/2) のSL、風化細礫(浮石)を含む。均質連結状もしくは発達弱度の塊状構造を呈し、細孔を含む。凝似グライ呈を呈する。調査時の湿り湿。層界波状漸変。
第4層	60cm~	腐植を欠く淡黄灰色 (7.5Y7/1) のL (農学会法触感) 風化細小礫(浮石)を含む。均質連結状を呈し、ち密度22で中。斑状の酸化沈積物を含み、凝似グライを呈する。

代表的断面分析成績

常呂郡訓子府町字柏丘 試坑No.48

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘性						
1	0~20	6.0	5.4	49.7	33.9	11.0	L	58.9	2.28	9.02	0.61	15
2	20~35	9.1	2.0	26.0	53.1	18.9	SiCL	61.6	2.36	6.50	0.48	14
3	35~45	7.8	12.1	40.4	35.9	11.6	L	70.0	2.47	-	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	14.6	5.2	4.4	2.50	34.8	12.5	3.2	0.5	36.0	1.413	128
2	10.2	5.0	4.2	10.75	22.3	2.6	1.2	0.3	11.7	2.506	23
3	-	5.2	4.3	5.00	19.9	1.6	1.4	0.4	8.2	2.015	-

A-2 他の土壌統との関係

本統は概ね凝似グライ土に属するが、中に停滞水グライ土が不規則に分布し、今回の調査精度でこれを図化することが出来なかつたため、これらを取りまとめたものである。本統に隣接又は類似する統としては柏丘北統、北栄北統、日出統があるが、北栄北統、日出統とは凝似グライの有無により、柏丘北統とは下層のち密度並びに凝似グライの強弱により夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（半固結まで至らないが弱い固結をしている。）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

緩かな傾斜を有する標高160～210mの段丘地。

C 気候

年平均気温5.2℃、年降水量758.3mm、無霜期間130日前後。気候冷涼で無霜期間短く、しばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、小麦、豆類、馬鈴薯、ビート、牧草、その他が作付られている。

E 農業上の留意事項

表土は腐植を多量に含み保水性の強い土壌であり、かつ下層の透水性はあまりよくなく排水不良を呈している。暗渠排水を実施しているが、排水は少々緩慢に進行する傾向があつて一時的な水分過剰を免れ得ない。従つて吸水渠の増設等を行なつて排水を更に推進する必要がある。

大型農機具の導入によつて必然的に深耕されることが多くなると予想されるが、下層土は磷酸固定力強く、磷酸含量少なく又加里、石灰が不足しているので、これらの施用が必要であらう。一般に施肥は加里、燐酸に重点をおくことが望ましい。

D 分布

常呂郡訓子府町字柏丘、日出、北栄の大部分。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
柏 丘 統-柏 丘 区	IIIwf IItdne

② 土壌区別説明

柏 丘 統 - 柏 丘 区

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

春 日 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~23cm、腐植含量は7.1~7.6%、土性はLiC~SiCである。色は7.5YR~10YRで、彩度1~3、明度2~3である。礫なく、発達弱度の細粒状構造を呈す。ち密度9~16ですこぶる疎~疎である。pH(H₂O)は5.8~6.4前後。下層への境界は波状で明瞭の処が多い。

第2層は厚さ13~21cm、腐植含量は1.3~3.4%、土性はLである。色は7.5YR~10YRで、彩度3~4、明度2~5の処が多い。礫殆んどないが、まれに未風化な半角、角礫の小礫が見られる。発達弱度の細粒状~粒状構造の処が多いが、単粒~均質連結状の処もある。細孔、小孔を含む。ち密度は13~17で疎である。pH(H₂O)は6.1~6.3前後。下層への境界は不規則漸変の処が多い。

第3層はおおむね3.7cm以下で、腐植含量は2%以下、土性CL~SLである。色は2.5Y~5Yで、彩度1~2、明度5~7の処が主で、7.5YR~10YR、彩度4~6、明度4~7の処もある。礫なく発達弱度の塊状構造を僅かに含む均質連結状を呈す。ち密度は15~25で、疎~密である。尙本層以下には膜状、層状、斑状の酸化沈積物を含む処が多く、透水性の悪い事を示している。pH(H₂O)は6.3前後。

代表的断面型態

(所在地) 常呂郡置戸町勝山 試坑№12(置戸)

第1層	0~23cm	腐植に富む黒褐色(10YR2/3)のLiC、発達弱度の粒状構造と中度の細粒状構造との複合、ち密度14で疎、pH(H ₂ O)5.8前後、調査時の湿めり半干、境界波状明瞭
第2層	23~37cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR4/3)のL、発達弱度の粒状構造、小孔を含む。ち密度16で疎。pH(H ₂ O)6.3前後、調査時の湿めり半干、境界は不規則で漸変。
第3層	3.7cm~	腐植を欠く黄褐灰(2.5Y5/2)のCL、発達弱度の塊状構造、小孔あり、ち密度20で中、pH(H ₂ O)6.4前後、調査時の湿めり湿。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 粗 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~23	6.0	4.7	43.7	26.5	28.8	LiC	96.3	2.53	4.40	0.45	10
2	23~37	4.6	10.9	40.5	35.6	13.1	L	120.1	2.72	0.72	-	-
3	37~	4.4	12.7	40.6	30.9	15.8	CL	127.7	2.78	0.42	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石炭 飽和度 %	磷酸吸収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1	7.6	5.8	5.0	0.8	26.9	16.5	3.7	0.5	61.3	1,079
2	1.3	6.3	4.7	2.1	15.8	10.3	2.2	0.4	65.1	755
3	0.7	6.4	4.9	1.2	12.7	8.6	1.9	0.6	67.5	774

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては田付統、境野南統、境野北統、境野中央統がある。田付統は母材が異なり、酸化沈積物なく、砂礫層がある事で区別され、境野南統とは表土の土性が異なり、境野中央統は酸化沈積物がなく、堆積様式の差で区別される。

A-3 母材非固結水成岩（石英粗面岩、凝灰岩）

A-4 堆積様式洪積世堆積

B 地 形

標高200～300m、平均傾斜4度内外の丘陵性台地。

C 気 候

気候は一般に冷涼。年平均雨量925.0mm、年平均気温4.8℃

D 植生及び利用状況

殆んど耕地として利用されている。栽培作物は大豆、小豆、麦類、はつかである。

E 農業上の留意事項

全般的に下層堅密で、排水悪く、作物根の伸長が悪い。更に土壌の流亡も促進しているので、心土耕、排水等が必要である。

F 分 布

常呂郡置戸町勝山及び境野

調査及び記載責任者 野 村 琥（北海道立農業試験場）

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
春 日 - 2	IIIw II t f n s e

置戸町に連続して分布、
春日一1は置戸町に分布

② 土壌区別説明

春 日 - 2

第2層は厚さ15~40cmで腐植含量15~16.3%、土性はCLが主である。色は7.5~10YRで彩度3~8、明度3~5である。礫なく、発達弱度の細塊状構造（脆弱）を呈し、細孔に富む。ち密度1.4~2.0で疎のものが多く、pH (H₂O) 5.3~6.0。下層との境界は波状漸変する。

第3層は厚さ20~30cmで、腐植を欠き、土性はLが主である。色は10YR~2.5Yで彩度2~6、明度6~8である。礫を含まず、発達弱度の細塊状構造（脆弱）を呈し、ち密度1.5~2.2で疎のものが多く、pH (H₂O) 5.6~5.9。下層との境界は波状少々明瞭である。

第4層は地表下概ね55~80cmで、腐植を欠き、土性はL~SLである。単粒もしくはパン屑状構造を呈し、細孔に富む。ち密度2.0前後で中。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字日の出 試坑No.113

第1層	0~15cm	腐植に富む黒色(10YR 2/1)のL、礫なく、発達弱度の細粒状構造、細孔に富む。ち密度1.5で疎、pH (H ₂ O) 5.9前後、調査時の湿り半乾、下層との境界は直線少々明瞭である。
第2層	15~30cm	腐植を僅かに含む明褐色(7.5YR 5/8)のCL、礫なく、発達弱度の細塊状構造（脆弱）、細孔に富む。ち密度2.0で中、pH (H ₂ O) 5.3。調査時の湿り半乾、層界波状漸変。
第3層	30~55cm	腐植を欠く灰黄褐色(2.5Y 7/4)のL、礫なく、発達弱度の細塊状構造、細孔を含む。ち密度2.2で中、pH (H ₂ O) 5.6。調査時の湿り半乾、層界波状少々明瞭。
第4層	55cm~	腐植を欠く淡黄灰色(2.5Y 7/2)礫なく、単粒構造、細孔に富む。ち密度2.0で中、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町字日の出 試坑No.113

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~15	4.3	10.8	50.6	25.6	13.0	L	69.7	2.40	5.81	0.42	14
2	15~30	6.6	9.9	43.9	28.4	17.7	CL	81.9	2.67	1.77	0.19	9
3	30~55	6.4	23.0	39.1	30.3	7.8	L	65.2	2.66	-	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	9.6	5.9	5.1	0.25	26.3	1.54	1.8	0.5	58.6	1.041	22.5
2	2.8	5.3	4.3	4.75	17.1	4.2	1.8	0.8	24.4	1.754	2.0
3	-	5.6	4.7	1.25	12.8	3.1	2.4	0.3	24.1	1.723	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、柏丘北統、柏丘統、大谷統、緑丘統等があるが、柏丘北統、柏丘統とは凝似グライ層の有無及び下層の堅密度の差異により、又大谷統、緑丘統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高140～170mを有する段丘上の緩傾斜地

C 気候

年平均気温5.2℃、年降水量758.3mm、無霜期間130日前後。気候冷涼で無霜期間短く、しばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、小麦、豆類、ビート、馬鈴薯、牧草その他の飼料作物、薄荷、薬草、高級菜豆等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

傾斜は緩かであるが、融雪時、降雨時には水蝕の発生が見られるので、緑作帯その他の防止対象を構する必要がある。又一部は乾燥期に風蝕を受ける場合があり、このようなところは防風林の設置が特に必要である。

一般に心土は磷酸固定力強く、有効磷酸に乏しく、且つ石灰も不足がちなので、大型農機具の使用による必然的な深耕の場合は改良資材として磷酸、石灰の投与が必要である。

有機物の施用は地力の維持増進のため大切な事項である。

F 分布

常呂郡訓子府町字日出、柏丘、緑丘の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
日 出 統 一 1 区	IIsfse
" 一 2 区	IIfs
" 一 3 区	IIse

(2) 土壌区別説明

日 出 統 一 1 区

示 性 分 級 式

土	有	表	耕	((土	((自	((養	((障	((侵	((
壤	効	表	表	表	透	保	湿	然	層	固	土	置	有	酸	化	物	傾	自	傾	人	侵	耐	耐	
生	土	土	土	土	地							の	性	態	学	理	然	斜	為		水	風		
産	土	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害				蝕			
力	の	層	の	の	乾	乾					基	の	灰	土	里	酸	障	障			蝕			
可	の	磔	の	粘	土	乾					状	豊	含				害	害			蝕			
能	厚	含	難	土	着	硬					沃	力	態	"	"	"					蝕			
性	等	深	性	性	性	性	性	度	度	力	力	態	量	"	"	"	度	性	性	斜	向	斜	度	性
級	さ	さ	量	易	湿	湿	湿	度	度	度	度	否	否	否	否	否	性	性	斜	斜	蝕	性	性	
II	II	I	I	I	2	1	(2)	I	1	2	1	II	1	2	2	I	1	1	1	1	2	I	1	1
簡略分級式 II t f s e																								

A 土壤区の特徴

この土壤区は日出統に属する。作土の厚さは15cmで中庸もしくは少々浅く、有効土層は1m以上で深い。作土は壤質で粘着性弱く農具を使うに当つてわずかに抵抗を感じる。下層土は浮石質を主体とする凝灰質風化物が膨軟であるが、保水性があるため過湿、過乾のおそれが少ない。しかし土壤が軽しようなための晩春の乾燥期には強風によつて表土が飛散することがある。

保肥力大、燐酸固定力は作土は小であるが、下層土は大である。土層の塩基状態は作土は良好であるが、下層土は不良である。

作土の養肥分は中庸であるが、下層土は石灰、苦土、加里等の塩基に欠乏し、燐酸に欠如している。

特殊の障害性は存在しない。傾斜は緩かであるが、耐侵蝕性に乏しく、融雪時、降雨には水蝕が発生する。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、ビート、馬鈴薯、小麦、えん麦、牧草、その他の飼料作物、ハツカ、菘草等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

緩傾斜を有し、融雪期、降雨時に水蝕が見られる。又晩春の乾燥期に季節風の襲来によつて風蝕を受けることがあるから、防風林の設置及び、緑作帯、牧草畑の拡大等による保全耕作を考慮する必要がある。

表土は一般に少々浅く、侵蝕によつて下層土が作土に混入し、腐植の少ないところも見受られ、又一部は耕盤の形成されているところもあるから、堆厩肥、緑肥等の有機物を施用しながら逐次深耕して行くことが望ましい。

特に有機物の施用は深耕にかかわらず必要なことである。

尚、トラクター等による急激な深耕の場合には有機物の施用は勿論、燐酸資材、炭カルの投入を行なう一方、施肥量を増加しなければ減収を招くおそれがあるので特に注意を要する。

D 分 布

常呂郡訓子府町字日出の一部及び柏丘の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)
昭和40年3月31日

日 出 - 2 区

示 性 分 級 式

土	壤	表	効	土	表	表	土	土	地	然	自	保	湿	固	土	層	分	換	〃	〃	効	有	酸	障	化	物	傾	自	傾	人	侵	耐	耐	
生	産	力	可	能	性	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	〃	〃	〃	度	性	性	性	性	斜	向	斜	度	性	性	
級	さ	さ	量	易	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
II	I	I	I	I	2	1	(2)	I	1	1	1	II	1	2	2	I	1	2	1	1	2	I	1	1	I	1	I	1	--	II	1	3	1	
簡略分級式 II f s																																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は日出統に属する。本統-1区とは表土の厚さ、腐植含量、侵蝕の程度が主として異なるので区分した。

表土の厚さは30cm前後で少々深く、有効土層は1m以上である。表土の土性は粘質に属するが、粘着性は強くなく、農具の使用は容易である。透水性は良好であるが、保水性は少々強く過湿、過乾のおそれはない。

保肥力は大、磷酸固定力は作土は中庸であるが、下層は大である。土層の塩基状態は中庸である。石灰、加里含量少々多く、有効磷酸含量も多い。苦土は中庸であるが、下層の有効磷酸含量は低い。特殊の障害性は存在しない。地形は緩かな傾斜を有し、侵蝕の程度は少ない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地と利用され、ビート、馬鈴薯、苧類、麦類、高級菜豆、牧草等が栽培されていて、収量も当地帯では高い方に属する。

C 地力保全上の問題点

大型農具の導入によつて必然的に深耕となる場合は、下層は磷酸に欠乏しているので、磷酸の投与と増施が必要となるから特に注意を要する。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

日 出 - 3 区

第2層は厚さ10~15cmで、腐植含量3%内外、土性はCLが主である。色は10YRで彩度4、明度4~5。発達弱度の細塊状を呈し、細小孔を含む。ち密度20~22で中である。pH(H₂O)5.9前後。下層へは波状漸変する。

第3層は厚さ20~25cmで、腐植を欠き、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度6、明度5、発達弱~中度の細塊状構造を呈し、細孔を含む。ち密度20~24で中である。pH(H₂O)5.8前後。下層へは波状漸変する。

第4層は地表下概ね45~60cm以下で、腐植を欠き、土性はSL~Lである。色は7.5YRで彩度6~8、明度5。発達弱度の塊状構造を呈し、小孔を含む。ち密度24前後で中である。pH(H₂O)6.0前後。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字彌生 試坑No.77

第1層	0~14cm	腐植に富む黒色(10YR2/1)のCL、発達弱度の粒状構造、細小孔に富む、ち密度10で頗る疎、pH(H ₂ O)6.2、調査時の湿り半乾、層界直線少々明瞭。
第2層	14~25cm	腐植を含む灰黄褐色(10YR5/4)のCL、発達中度の細塊状構造、細孔に富み小孔を含む。ち密度22で中、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、層界波状漸変。
第3層	25~45cm	腐植を欠く明褐色(7.5YR5/6)のL、発達中度の塊状構造、細孔を含む~富む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾、層界波状漸変。
第4層	45~67cm	腐植を欠く明褐色(7.5YR5/8)のSL、発達弱度の塊状構造、細孔に富む、腐朽細礫を含む。ち密度24で中、pH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾、層界波状明瞭。
第5層	67cm~	腐植を欠く明橙褐色(7.5YR6/8)のL、発達弱度の塊状構造、ち密度24で中。

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町字彌生 試坑No.77

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~14	4.0	12.1	43.8	28.1	16.0	CL	87.9	2.46	4.77	0.32	15
2	14~25	3.8	16.1	37.1	27.4	19.4	CL	103.1	2.62	1.61	0.16	10
3	25~45	3.7	17.5	35.9	26.5	20.1	CL	121.6	2.80	-	-	-
4	45~67	3.3	22.4	42.7	26.1	8.8	SL	122.1	2.75	-	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.9	6.2	5.2	0.25	2.33	17.7	2.0	1.3	75.8	776	8.7
2	2.7	5.9	4.8	0.50	14.8	8.2	1.9	0.8	55.1	679	3.8
3	-	5.8	4.5	0.75	11.5	6.0	3.8	0.8	51.9	711	1.4
4	-	6.0	4.5	0.75	9.8	5.6	3.1	0.8	56.9	660	-

A 土壌区の特徴

この土壌区は彌生西統に属する。作土は14~20cmで中庸もしくは少々浅く、有効土層は70~100cmで中庸である。作土の土性は粘質に属するが、粘着性弱く農具の使用は容易である。下層の透水性が中庸で、保水性も中庸なので過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態も良好である。

有効磷酸は中程度で、その他の養分は比較的多い。

特殊の障害性は存在しない。傾斜を有し水蝕発生のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

地区の半ばは耕地に利用されて、馬鈴薯、苜蓿、藜草、飼料作物等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

傾斜地であり、表土は耐侵蝕性に乏しいため水蝕発生のおそれが多いから、緑作帯の設置、牧草の作付拡大等の防止対策が必要である。本区は堆厩肥の効果が大きいと考えられるので、有機物の施用が望ましい。

特に侵蝕によつて下層土がかなり作土に混入しているところは堆厩肥、緑肥等有機物の施入が必要である。

D 分布

常呂郡訓子府町字彌生の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

彌 生 西 - 2 区

示性分級式

土壌	有効土層	表土の厚さ	表土の難着性	表土の粘着性	表土の乾燥性	土の透水性	自然肥沃度	保肥力	固肥力	土層塩基量	養置の石灰含有量	障酸化障害	傾斜	自傾	人為的障害	侵入的障害	耐蝕性
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ
簡略分級式 IIIe IItgfns																	

この土壌区は彌生西統に属する。本統1区とは表土の厚さ、礫含量、自然肥沃度が異なるので区分した。

表土は20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。表土は粘質に属するが、粘着性弱く、農具の使用に困難性はない。

下層の透水性は中庸乃至少々良好で、表土の保水性が中庸で過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力

中、燐酸固定力小で、土層の塩基状態は中庸もしくは稍々低い。

石灰、有効燐酸含量は中庸、苦土、加量は稍々多い方に属する。

特殊の障害性は存在しないが、地形は傾斜を有し、水蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

面積の半ばは耕地に利用され、馬鈴薯、菜豆、えん麦、牧草その他が作付けられている。耕地以外は主として山林になつている。

融雪期、降雨時には水蝕の発生が多いので保全耕作が必要である。特に侵蝕の激しいところは緑作帯、或は牧草畑にすることが望ましい。

複合斜面を呈し、農道が不良なので、肥培管理に適正を欠くことがあるから作付体系の中で侵蝕を防止し且つ有機物を補給して行く方策が特に望ましいところである。

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

豊 坂 西 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18~22cmで、腐植含量5%内外、土性はLが主である。色は7.5YR~1.0YRで彩度2~3、明度は2である。発達弱度の細粒状~粒状構造を呈し、細小孔に富む。

風化細小半角礫を含み、ち密度8~10で頗る疎である。pH(H₂O)6.1~7.1、下層との境界は波状稍々明瞭である。

第2層は厚さ17~20cmで、腐植含量1~2%、土性はCLである。色は7.5YRで彩度4、明度4である。風化、腐朽細小中半角礫を含み、塊状、細塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔に富み、ち密度18~22で中である。pH(H₂O)6.0前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ15~20cmで、腐植を欠き、土性はLである。色は7.5YRで彩度6、明度5である。風化、腐朽細小中半角礫を含み、塊状、細塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔をわずかに含む。ち密度20~25で中~密である。pH(H₂O)5.4前後。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下概ね60cm以下で、腐植を欠き、土性はC(農学会法触感)である。色は7.5YRで彩度6、明度5である。風化、腐朽細小半角礫を含み、塊状構造で、発達弱度のものが多い。斑状の酸化沈積物に富む場合がある。ち密度27前後で密である。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字豊坂 試坑No.186

第1層	0~18cm	腐植に富む黒褐色(7.5YR 2/3)のL、発達弱度の細粒状、粒状の複合構造、細孔に富む。風化細角礫を含む、ち密度10で頗る疎、pH(H ₂ O)7.1、調査時の湿り半乾、層界波状稍々明瞭。
第2層	18~35cm	腐植を僅かに含む褐色(7.5YR 4/4)のCL、風化、腐朽細小中角礫を含む、発達弱度の細塊状、塊状の複合構造。ち密度22で中、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り稍々湿、層界波状漸変。
第3層	35~55cm	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/6)のL、風化、腐朽細小中半角礫を含む。発達弱度の細塊状の複合構造、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り稍々湿、層界波状明瞭。

第4層	5.5cm~	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/6)のC、風化、腐朽細小半角礫を含む、発達弱度の塊状構造、ち密度27で密、調査の湿り湿。
-----	--------	--

有効的断面の分析成績

常呂郡訓子府町字豊坂 試坑No.186

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~18	3.8	14.9	40.8	30.3	14.0	L	9.91	2.75	3.26	0.28	12
2	18~35	5.3	18.7	30.2	30.8	20.3	CL	128.6	2.68	0.91	0.08	11
3	35~55	6.4	22.5	38.5	26.2	12.8	L	123.5	2.61	-	-	-

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数	有 効 態 燐 酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	7.1	6.4	0	21.6	22.3	3.5	1.2	103.4	85.4	19.4
2	1.5	6.0	4.8	0.50	16.2	11.1	2.9	1.1	68.5	102.0	1.7
3	-	5.4	4.3	2.75	18.3	9.5	4.0	1.4	51.8	112.5	-

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統は褐色森林土に属すると考えられる。本統に隣接又は類似する統としては柏丘統、豊坂統、北栄北統等があるが、何れも母材が異り、乾湿の程度が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩(安山岩風化物主)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形

240~260mの台地で、波状性緩傾斜を呈する。

C 気 候

年平均気温5.2℃、年降水量785.3mm。気候冷涼で無霜期間短く、しばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、ビート、馬鈴薯、菜豆、小豆、小麦、牧草等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層の透水性が少々不良を呈するため少々湿性を呈し、一時的に過湿になるおそれが多いから、明渠排水を完備し、過湿のおそれの多いところは更に暗渠排水の実施を必要とする。地形は緩傾斜を有し、降雨時、特に融雪期には水蝕が発生するから緑作帯、牧草作付拡大等の防止策が望ましい。

F 分 布

常呂郡訓子府町字豊坂の一部

調査及び記載責任者 高尾 欽 彌(北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

格 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
豊 坂 西-豊 坂 西	IIIw Itse

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~17cmで、腐植含量5~6%、土性はLが主である。色は10YRで彩度3~4、明度2~3。細粒状構造で、発達程度は弱度のものが多い。細小孔に富む。ち密度10前後で疎である。pH(H₂O)5.5~5.8。下層との境界は波状少々明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで、腐植含量1~2%、土性はCLが主である。色は7.5YR~10YRで彩度4~6、明度4。細塊状構造で発達程度は弱度のものが多い、細小孔に富む。

ち密度21~25で中~密である。pH(H₂O)5.9前後。下層へは波状漸変する。

第3層は厚さ15cm内外で、腐植を欠き、土性はLSが主である。色は2.5Y~5Yで彩度2、明度7~8。均質連結状構造を呈し、斑状の酸化沈積物(鉄銹斑)に富む。pH(H₂O)6.2前後。下層との境界は判然としている。

第4層は地表下概ね50cm以下で、腐植を欠き、土性はSL(農学会法触感)である。色は7.5YR~10YRで彩度6、明度5である。均質連結状構造を呈し、ち密度30以上で甚だ密である。

代表的断面形態

(所在地)常呂郡訓子府町字豊坂 試坑No.193

第1層	0~17cm	腐植に富む暗褐色(10YR3/4)のL、発達弱度の細粒状構造、細小孔に富む、ち密度10前後で疎、pH(H ₂ O)5.8、調査時の湿り半乾、境界波状判然。
第2層	17~33cm	腐植あり、褐色(7.5YR4/6)のCL、発達弱度の細粒状構造、細小孔を含む、ち密度21で中、pH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り湿、境界波状漸変
第3層	33~50cm	腐植を欠く淡黄灰色(2.5Y8/2)のLS、均質連結状構造、ち密度28で密、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り半乾、斑状の酸化沈積物に富む、境界波状判然
第4層	50cm~	腐植を欠く黄褐(10YR5/6)のSL(農学会報触感)、均質連結状構造、ち密度34で甚密

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町豊坂 試坑No.193

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~17	2.8	16.4	43.8	26.0	13.7	L	102.6	2.45	3.44	0.25	14
2	17~33	4.8	24.2	34.7	25.8	15.3	CL	113.4	2.70	0.96	0.09	10
3	33~50	1.5	61.7	25.9	6.8	5.5	LS	-	-	-	-	-

層位	腐 植 %	pH		置 換 酸 度 Y ₁	置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 収 係 数	有 効 態 燐 酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.8	5.8	4.9	0.50	15.5	10.2	0.8	0.6	65.7	735	14.6
2	1.6	5.9	4.6	0.75	12.6	5.6	3.2	1.3	44.6	696	1.3
3	-	6.1	4.9	0.50	4.4	1.7	1.8	0.5	39.3	288	-

A-2 他の土壌統との関係 本統に隣接又は類似する統としては、柏丘統、豊坂統、豊坂西統等があるが、何れも母材に相違が見られ、下層の堅密度が異なるため夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(石英粗面岩質風化物主)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形 標高240m内外の台地で、緩傾斜を呈する

C 気 候 年平均気温5.2℃、年降水量785mm。気候冷涼で無霜期間短く、しばしば冷害凶作が見られる。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水は実施されているが、完全な排水には至らず弱湿性を呈し、又一部未施行のところもあるから明渠排水、暗渠排水の完備が必要である。

トラクターによる深耕が一部行なわれているようであるが、この場合は有機物を投入し、施肥量を増加する必要があるから特に注意を要する。

C 分 布

常呂郡訓子府町字豊坂の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

西 富 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～28cmで、腐植含量5%内外で、土性はCL～Lである。色は10YR～2.5Yで彩度1～4、明度2～4。細粒状、粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。細小孔に富む。ち密度8～11で頗る疎～疎である。pH (H₂O) 5.5～6.0。下層との境界は波状判然としている。

第2層は厚さ10cm内外で、腐植含量1～2%、土性はLのものが多い。色は10YR～2.5Yで彩度2～4、明度3～5。細塊状構造で発達程度は弱度のものも多く、細孔に富む。ち密度16～19で疎である。pH (H₂O) 6.0前後。下層へは概ね波状漸変する。

かつて水田であつたため第1層と第2層との間に古い勸床層が存在する場合がある。

第3層は厚さ20～30cmで腐植を欠く場合が多く、土性はSLが主で、Lの場合もある。

色は10YR～2.5Yで彩度3～6、明度4～7。細塊状～塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度16～22で中である。pH (H₂O) 6.4。下層との境界は波状判然である。

第4層は地表下概ね60cm以下で、腐植を欠き土性はS～SL (農学会法触感)のものが多い。

色は2.5Yが主で彩度6、明度5のものが多い。単粒構造を呈する。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡訓子府町字西富 試坑No.214

第1層	0～28cm	腐植を含む黄褐灰色(10YR 4/2)のCL、発達弱度の細粒状構造、細小孔に富む、ち密度8で頗る疎、pH (H ₂ O) 5.9。調査時の湿り半乾、境界波状判然。
第2層	28～45cm	腐植あり、灰黄褐色(10YR 5/4)のL、発達弱～中度の細塊状構造、細孔に富む、ち密度16で疎、pH (H ₂ O) 6.0、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	45～67cm	腐植を欠く黄褐色(2.5Y 5/6)のLS、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度15で疎、pH (H ₂ O) 6.4、調査時の湿り湿、境界波状判然。
第4層	67cm～	腐植を欠く白、黒色混合のS (農学会法触感)、単粒構造、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町字西富 試坑No. 214

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~28	3.2	3.1	49.5	32.2	15.2	CL	85.1	2.75	2.75	0.27	1.0
2	28~45	2.9	0.7	52.2	32.9	14.2	L	98.9	2.60	0.82	-	-
3	45~67	2.8	2.0	65.2	21.4	11.4	SL	-	-	-	-	-

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 燐 酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.6	5.9	4.9	0.50	2.70	1.79	2.0	1.8	66.3	611	1.77
2	1.4	6.0	4.9	0.25	18.0	1.25	2.1	0.5	69.4	657	1.13
3	-	6.4	5.0	0.25	16.1	1.17	2.2	0.9	72.7	640	7.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、柏丘北統、豊坂統、穂波統等があるが、柏丘北統、豊坂統とは母材、堆積様式が異り、穂波統とは腐植層序、乾湿に差異が認められるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地 形

常呂川の流域に分布する低平地である。

C 気 候

年平均気温 5.2℃、年間降水量 785.3mm、無霜期間短く、気候冷涼でしばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、ビート、菜豆、小豆、馬鈴薯、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

とりたてて問題点はないが、有機物を施用して地力の維持に努めることが肝要であろう。

F 分 布

常呂郡訓子府町字西富、実郷、清住の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
西 富 - 1 区	II t p
" - 2 区	II t d

② 土壌区別説明

西 富 統 一 1 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(((土	(((自	(((養	(((障	((傾	((侵	((
壤	効	土	耘	土	土	土	地		然			層	分	換	"	"	効			害	理		然	斜	為		水	風		
産	土	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐		害	質		的			蝕				
力	の	層	の	の	粘	土	乾							基	灰	土	量			害	障		傾	傾		蝕	蝕			
可	の	の	難	土	着	硬	乾							状	豊	含				有			方							
能	厚	深	含	性	性	性	性	性	度	力	態	量	"	"	"	"	度			無	性	斜	向	斜	度	性	性			
等	級	さ	量	易	((湿	((度	((否	((((性	(斜	((蝕	((((
級	さ	量	易	((湿	((度	((否	((((性	(斜	((蝕	(((((
	t	d	g	p		w		f		n		i		s		e														
II	II	I	I	II	2	2	1	I	1	2	2	I	1	1	1	I	1	1	1	2	I	1	1	I	1	--	I	1	2	1
簡略分級而 IItp																														

A 土壌区の特徴

この土壌区は西富統に属する。表土の厚さは20~28cmで中庸、有効土層は1m以上のところが多く一般に深い。表土の土性は粘質に属し、粘着性中庸で農具の使用に当つてかなり低抗を感じる。保水力中庸で透水性が良好なので過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力ごく小で土層の塩基状態は良効であり、養分も多い。

特殊の障害性は存在しない。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、ビート、馬鈴薯、菜豆、小豆、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

有機物の補給を行なつて、地力の維持に努めることが望ましい。局所的に砂礫が浅く出現するところは特に有機物の施用が必要である。

D 分 布

常呂郡訓子府町字西富、清住、実郷の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

中 里 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13~27cm、腐植含量は4.6~7.4%、土性はL~CLである。色は10YRで、彩度2~4、明度2~3である。礫なく、発達弱度の細粒状構造を呈す。ち密度8~16でずこぶる疎から疎である。pH (H₂O)は6.2前後。下層への境界は波状で漸変の処が多い。

第2層は厚さ不規則であるが、おおむね16~36cmで、腐植含量は1.1~4.4%、土性L~CLである。色は10YRで、彩度3~6、明度3~5である。礫は処により未風化の小中円礫、半角礫

を含む。発達弱度の細粒状構造若しくは単粒構造である。ち密度は1.2~1.7で疎である。pH (H₂O) は6.1前後。下層への境界は不規則で明瞭である。

第3層はおおむね50cm内外以下で、未風化な円礫、半角礫からなる礫層で、その大きさは小礫から巨礫まで含まれている。

代表的断面型態

(所在地) 常呂郡置戸町勝山 試坑No.21

第1層	0~26cm	腐植に富む黒褐(10YR2/2)のL、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.0で疎、pH (H ₂ O) 6.2前後、調査時の湿り半干、境界は波状で漸変。
第2層	26~50mm	腐植を含む灰黄褐(10YR4/4)のL、未風化な円、半角の小~中礫を含む。ち密度1.3で疎、pH (H ₂ O) 6.1前後、調査時の湿り半干、境界は不規則で明瞭。
第3層	50cm~	未風化な円礫、半角礫から成る礫層。礫の大きさは小礫から大礫まで含む。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~26	4.0	5.8	53.4	30.0	10.8	L	85.9	2.52	4.29	0.42	10
2	26~50	5.3	10.0	46.7	29.0	14.3	L	83.7	2.61	2.57	2.30	9

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷 酸 吸収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1	7.4	6.2	5.4	0.6	23.6	17.6	2.2	0.9	74.4	6.62
2	4.4	6.1	4.5	2.6	21.2	9.7	1.4	0.7	45.6	1.313

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する統としては勝山統、安住統がある。勝山統と区別されるのは前記の通りで、安住統は礫層がなく、酸化沈積物があるので区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 水 積(河成)

B 地 形

標高200m内外の平地。

C 気 候

気候一般に冷涼。年平均雨量925.0mm、年平均気温4.8℃

D 植生及び利用状況

耕地として利用されている。主な作物は豆類、麦類、馬鈴薯、はつか、てんさい等である。

E 農業上の留意事項

礫層の近い処は除礫が必要である。最近はストンピッカーが使用されている。

F 分 布

常呂郡置戸町勝山及び境野

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
中 里 - 4	IItd

中里-1.2.3は置戸町に分布

② 土壌区別説明

中 里 - 4

示 性 分 級 式 (畑)

	土 表	有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
	壤	効 土	表 表 表	透 保 湿	保 固 土	置 有 微 酸	有 物 增 地	自 傾 人	侵 耐 耐	
	生 土	耘 土	土 土 土	然	層 分 換	" " 効	害 理 冠 ず	斜	水 風	
	産 土	の 風	の 乾	水 水 潤 肥	肥 定 塩	の 石 苦 加 磷	物 水 べ	然 斜	為 水 風	
	力 的 的	の 粘 土	の 乾	沃 沃	基 灰 土 里 酸 要	の 障 危 危	害 質 害 的	傾 傾	方 方	蝕 蝕
	可 能 性	の 厚 含 深	難 着 硬	性 性 性	力 力 力	態 態 態	" " "	素 度 無 性	度 度 度	斜 斜 斜
	等 級	さ さ 量	易 湿	度 度 度	否	性 性 性	性 性 性	斜 斜 斜	蝕 蝕 蝕	
		t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
		II II II I I	2 1 1	I 1 2 1	I 1 1 1	I 1 1 1 1	- 1	I 1 1	I 1 1	I 1 - - 1 1 1
		簡略分級式 IItd								

A 土壌区の特徴

この土壌区は中里統 (主に置戸町に分布) に属する。表土の土性は壤質で粘着性弱く耕起、碎土は容易である。下層の透水性良好であるが、保水性が中程度で過湿、過乾のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好であり、養肥分も多い。特殊の障害性、災害性は存在しない。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、ビート、馬鈴薯、菜豆、小豆、その他の作物が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

常呂川流域の中で最も新しい沖積で、下層の土性は一般に粗く、腐植も少ないから有機物の施用により地力の維持に努めることが望ましい。

D 分 布

常呂郡訓子府町字西富の一部

大 谷 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は17~25cmで、腐植含量7~8%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度3~4、明度3~4。未風化、風化細小中半角、円礫を含むところがある。細粒状、粒状構造で発達程度は弱~中度である。細小孔に富み、ち密度8~13で頗る疎~疎である。pH (H₂O) 5.9~6.9。下層との境界は波状稍々明瞭である。

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量2~3%、土性はLiCのものが多い。色は5YR~7.5YRで彩度4~6、明度4。細孔に富む。下層との境界は波状激変する。

第3層は20~30cmで腐植を欠き、土性はSLのものが多い。未風化、半風化細小中半角、円礫を含む場合がある。色は7.5YRのものが多く彩度5~6、明度4~5。塊状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。ち密度18前後で中である。pH (H₂O) 6.5前後。下層との境界は不規則明瞭なものが多い。

第4層は地表下概ね70cm前後以下で、砂層もしくは砂礫層になっている。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字大谷 試坑No.117

第1層	0~25cm	腐植に富む褐色(7.5YR 3/4)のCL、発達弱度の細粒状構造、細小孔に富む。ち密度8で頗る疎、pH (H ₂ O) 6.6、調査時の湿り半乾、境界波状稍々明瞭。
第2層	25~45cm	腐植を含む赤褐色(5YR 4/4)のLiC、発達中度の細塊状構造、細孔に富む、ち密度23で中、pH (H ₂ O) 6.3、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	45~70cm	腐植を欠く褐色(7.5YR 4/6)のSL、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度18で中、pH (H ₂ O) 6.5、調査時の湿り湿、境界不規則明瞭
第4層	70cm~	腐植を欠く褐色(7.5YR 4/6)のSL(農学会触感)、発達弱度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度17で中、調査時の湿り湿。

代表的断面分析成績

常呂郡訓子府町字大谷 試坑No.117

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~25	4.4	5.6	42.1	28.6	23.7	CL	87.5	2.47	4.55	0.39	12
2	25~45	4.8	3.5	39.0	27.7	29.8	LiC	101.5	2.54	1.45	0.17	9
3	45~	3.4	1.59	58.9	13.0	12.1	SL	105.6	2.72	-	-	-

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷 酸 mg/100g
		K ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.5	6.6	5.8	0	31.9	2.08	3.5	1.9	65.2	9.05	36.4
2	2.4	6.3	5.2	0.25	28.4	2.31	3.2	0.7	81.3	1.195	17.5
3	-	6.5	4.9	0.25	18.9	1.53	3.1	0.4	80.8	8.03	9.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、大谷統、西富統、緑丘統があるが、大谷統とは母材、堆積様式が異り、西富統とは母材が相違し、緑丘統とは砂礫層の有無により夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩 (赤色珪岩風化物主)

A-4 堆積様式 水積 (可成沖統)

B 地 形

常呂川流域の低平地

C 気 候

年平均気温 5.2℃、年降水量 785.3mm、無霜期間短く、気候冷涼でしばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、菜豆、小豆、ビート、馬鈴薯、小麦、牧草その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

面積狭小であるが、肥沃な土壌であり、とりたてて問題点はないが、砂礫層の浅く出現するところは過乾のおそれが多いから、有機物の重点的投入或は客土等が必要と思われる。

F 分 布

常呂郡訓子府町字大谷の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
大谷中央 - 大谷中央	II tdp

② 土壌区別説明

大谷中央統一大谷中央区

示 性 分 級 式

土	表	有	表	耕	(((土	(((自	(((養	((((障	((傾	((侵	((耐	耐		
壤	効	土	表	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	層	分	換	置	有	酸	効	害	理	物	的	斜	為	水	風						
生	土	土	土	土	土	土	地		然			然				性		態			害	質			然		水	風					
産	土	の	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷			害	質			傾	傾	蝕	蝕					
力	の	層	の	の	粘	土	の	乾				基	灰	土	里	酸					害	質			傾	傾	蝕	蝕					
可	の	の	の	の	土	着	の	乾					基	灰	土	里	酸				害	質			傾	傾	蝕	蝕					
能	厚	含	難	土	着	硬		沃					基	灰	土	里	酸				害	質			傾	傾	蝕	蝕					
性	等	深																			害	質			傾	傾	蝕	蝕					
級	さ	量	易	性	性	性	性	度	力	力	態	否	量				度				無	性	斜	向	向	斜	度	性	性	性	性		
II	II	II	I	II	2	2	1	I	1	2	1	I	1	2	1	I	1	1	1	1	I	1	1	I	1	1	I	1	--	I	1	1	1

簡略分級式 II tdp

A 土壌区の特徴

この土壌区は大谷中央統に属する。表土の厚さは17～25cmで中庸で、有効土層は60～100cmで中庸である。表土の土性は粘質に属し、粘着性中庸で農具の使用に当つてかなり抵抗を感じる。表層の保水性稍々強いため、下層の透水性は良好であるが、過湿、過乾のおそれは少ない。しかし砂礫層の浅いところが帯状に分布し、かかるところは一時的過乾のおそれがある。

保肥力大、燐酸固定力小で、土層の塩基状態は良好であり、置換性塩基、有効燐酸含量多く、養肥分は豊富である。

特殊の障害性は存在せず、地形平坦で侵蝕のおそれもない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、菜豆、小豆、ビート、馬鈴薯、小麦、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

極く小面積ではあるが、砂礫層が浅く出現するところがあり、かかるところは有機物の重点投入或は客土等による土地改良の実施が望ましい。

有機物を投入し漸次深耕して行けば一層増収が期待出来る。

D 分 布

常呂郡訓子布町字大谷の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

緑 丘 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量5%内外、土性はCL～Lである。色は7.5YR～10YRで彩度1～3、明度2～3。未風化、半風化細小中大半角礫があり～含む。細粒状～粒状構造で発達程度は弱度である。細孔に富む。ち密度8～15で頗る疎～疎。pH (H₂O) 5.6～7.1。下層との境界は波状稍々明瞭である。

第2層は厚さ10～20cmで、腐植含量2%内外、土性はCL～LiCである。未風化、半風化細小中半角、円礫を含む場合が多い。色は7.5YR～5YRで彩度3～6、明度4。細小孔を含む。細塊状構造で発達程度は弱～中度である。ち密度20前後で中。pH (H₂O) 5.8前後。下層との境界は不規則である。

第3層は地表下概ね25～50cm以下で、未風化、半風化小中大半角、円礫からなる。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡訓子府町字緑丘 試坑No.158

第1層	0～15cm	腐植を含む暗褐色(7.5YR 3/3)のCL、発達弱度の細粒状、粒状の複合構造、細小孔に富む、ち密度8で頗る疎、pH (H ₂ O) 5.6、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
第2層	15～30cm	腐植あり、褐色(7.5YR 4/3)のLiC、未風化、風化細小中半角、円礫を含む、発達弱度の細塊状構造、ち密度20で中、pH (H ₂ O) 5.8、調査時の湿り湿、境界不規則
第3層	30cm～	未風化、風化小中大半角、円礫に頗る富む礫層

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町字緑丘 試坑No.158

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~15	3.8	7.9	37.8	31.7	22.6	CL	95.9	2.64	2.97	0.26	11
2	15~30	5.3	2.4	37.2	29.5	30.9	LiC	-	-	1.16	0.12	10

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有 効 態 磷 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.9	5.6	4.6	0.75	25.6	15.5	2.5	1.0	60.5	900	19.4
2	1.9	5.8	4.4	0.75	25.0	18.5	4.5	0.7	73.9	1,156	23

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、大谷統、日出統、大谷中央統等があるが、大谷統、日出統とは母材、堆積様式が異なり、大谷中央統とは砂礫層の有無により夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（赤色珪岩風化物主）

A-4 堆積様式 水積（河成沖積）

B 地 形

常呂川流域の低平地

C 気 候

年平均気温 5.2℃、年間降水量 875.3mm、無霜期間短く、気候冷涼でしばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、ビート、菜豆、小豆、馬鈴薯、牧草その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地表に大礫が存在するところは除礫が必要である。

局所的に特に砂礫層の浅いところは除礫を行なう一方客土も必要と考えられる。

F 分 布

常呂郡訓子府町字緑丘、大谷、開盛の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
緑 丘 - 緑 丘	III di II tgp

② 土壌区別説明

緑 丘 統 一 緑 丘 区

示性分級式 (加)

土	表	表	耕	(表	(表	(表	土	(透	(保	(湿	自	(保	(固	土	養	(置	(換	(換	(有	(酸	障	(有	(物	(傾	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐
壤	効	土	耘	土	土	地		然				層	分	性	性	態	効	害	物	理	的	障	害	斜	為	水	風	蝕	蝕	
生	土	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	障	害	斜	為	蝕	蝕				
産	力	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	障	害	斜	為	蝕	蝕				
力	可	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	障	害	斜	為	蝕	蝕				
可	能	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	障	害	斜	為	蝕	蝕				
性	厚	含	難	土	着	乾		沃			力	力	態	量	量	量	度	性	無	性	斜	向	斜	蝕	蝕					
等	深																													
級	さ	さ	量	易																										
	t	d	g	p		w		f			n			i		s						e								
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	22-32	I	11-21	I	1	2	1	I	1	1	1	2	Ⅲ	1	3	I	1	-	-	I	1	1	1	1		
簡略分級式		Ⅲdi		Ⅱtgp																										

A 土壤区の特徴

この土壤区は緑丘統に属する。作土の厚さは15cm内外で稍々浅く、有効土層は30~50cmで浅い。作土の土性は粘質で粘着性稍々強い。又未風化礫が存在するため農具の使用に当つてかなり抵抗を感じ、農具の磨波が早い。下層は砂礫層からなるが、地下水位が稍々高めで過湿、過湿のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は良好であり、置換性塩基、有効磷酸含量共に多く養分は稍々豊富である。

有効土層が浅く物理的障害を受ける。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、ビート、菜豆、小豆、馬鈴薯、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地表に大礫が存在するところは除礫が必要である。局所的に砂礫層が特に浅いところは客土も必要であろう。

堆厩肥、緑肥等有機物の施用は必要である。

D 分布

常呂郡訓子府町字緑丘、大谷、開盛の一部。

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

穂 波 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18~20cmで、腐植含量4~8%、土性はCLが主である。色は7.5YR~10YRで彩度1~4、明度1~3である。細小孔に富む。細粒状、粒状の複合構造で発達程度は弱度である。密度は8~14で頗る疎~疎である。pH(H₂O)5.5~7.0。下層との境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外で、腐植含量5%前後、土性はCL~LiCである。色は7.5YR~10YRで彩度1~4、明度2~4。粒状、細塊状の複合構造で発達程度は弱~中度である。

細小孔を含む。ち密度1.5~2.1で疎~中である。pH(H₂O)5.9前後。下層へは波状漸変する。

第3層は厚さ20~30cmで、腐植含量1~2%、土性はCL~SLと巾が広い。色は10YR~7.5YRで彩度4~6、明度3~5である。細中孔に富むものが多い。細塊状、塊状の複合構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度1.6~2.2で疎~中である。pH(H₂O)6.0~6.1。下層との境界は波状明瞭なものが多い。

第4層は厚さ10~15cmで、腐植を含むL~CL(農学会法触感)、色は10YRが主で彩度2、明度4のものが多い。細塊状構造で発達程度は弱~中度である。細小孔に富む。

ち密度1.7~2.4で疎~中である。下層との境界は波状漸変である。

第5層は地表下60~80cm以下で、砂質もしくは砂礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字穂波 試坑No.136

第1層	0~20cm	腐植に富む黒色(7.5YR1/1)のCL、発達弱度の細粒状、粒状の複合構造、細小孔に富む、ち密度8で頗る疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
第2層	20~35cm	腐植を含む黒褐色(7.5YR2/2)のLiC、発達弱~中度の粒状、細塊状の複合構造、細小孔を含む、ち密度2.1で中、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	35~58cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のSiCL、発達弱~中度の細塊状、塊状の複合構造、細中孔に富む、ち密度2.2で中、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
第4層	58~72cm	腐植を含む黄褐灰(10YR4/2)のCL(農学会法触感)、発達中度の細粒状構造、細小孔に富む、ち密度2.4で中、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第5層	72~85cm	腐植を欠く灰黄褐色(10YR5/4)のL(農学会法触感)、発達弱度の塊状構造、細小孔を含む、ち密度1.3で疎、調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
第6層	85cm~	未風化、風化円礫に頗る富む砂礫層。

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町字穂波 試坑No.136

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~20	4.7	4.0	41.4	32.5	22.1	CL	8.14	2.49	5.11	0.40	13
2	20~35	5.0	4.9	32.9	36.9	25.3	LiC	9.14	2.58	2.91	0.26	11
3	35~55	4.2	1.4	24.3	52.1	22.2	SiCL	10.83	2.68	0.87	0.10	9

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有 効 態 燐 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	8.4	5.5	4.6	1.00	26.6	1.34	3.6	1.7	50.4	87.6	19.2
2	4.8	5.9	4.9	0.50	26.3	1.69	5.0	1.2	64.2	95.7	2.8
3	1.4	6.0	4.8	0.50	19.4	1.42	6.7	1.4	73.3	79.2	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、西富統、柏丘北統があるが、柏丘北統は母材、堆積物式が異なり、西富統とは腐植層序、乾湿に差異があるので夫々本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩（凝灰岩質風化物混）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

常呂川流域の低平地。

C 気候

年平均気温 5.2℃、年間降水量 785.3mm、無霜期間短く、気候冷涼でしばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

全地耕地に利用され、ビート、馬鈴薯、菜豆、小豆、小麦、牧草その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

水田灌漑水の影響によつて弱湿性を呈しており一般に軽度の排水が望ましい。又一部は伏流水、滲透水等によつて過湿になるおそれが多いから、かかるところは明渠排水（一部捕水渠を必要とするところあり）の設置が望ましい。

局所的に砂礫層の浅いところが存在する。かかるところは有機物の投入或は客土等が必要であろう。

F 分布

常呂郡訓子府町字穂波、清住、西富の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
穂 波 - 1 区	IItdw
” - 2 区	IIIw IItn

② 土壌区別説明

穂 波 統 - 1 区

示性分級式 (畑)

土壌	有効	表土	耕土	(表土)	(表土)	(土)	(透)	(保)	(湿)	自然	(自保)	(固)	(土)	養分	(置換)	(有)	(酸)	障	(化)	(物)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)
産力	土の	土の	土の	の風	の乾	の水	水潤	肥定	肥定	塩	の石	苦加	磷	害	障	障	害	障	障	害	害	害	害	害	害	害	害
可能	の層	の礫	の粘	土の	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃
性厚	含	難	土着	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
II	t	d	g	p		w		f		n		i		s		e											
II	II	II	I	I	2	2	1	II	2	1	1	I	1	2	1	I	1	1	1	1	2	I	1	1	I	1	1
簡略分級式		IItdw																									

A 土壌区の特徴

この土壌区は穂波統に属する。表土の厚さは18~30cmで中庸、有効土層も70~100cmで中庸である。作土の土性は粘質に属するが粘質性弱く農具の使用に当つてわずかに抵抗を感じる。下層の透水性は中庸であるが、保水性が少々強く、水田灌溉水の影響も加わつて弱い湿性を呈している。

保肥力大、磷酸固定力小で、土層の塩基状態も良好である。置換性塩基含量、有効磷酸含量ともに多く、養分は豊富である。

特殊の障害性は存在しない。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

局所的に砂礫層の浅いところが存在している。

B 植生及び利用状況

全地耕地に利用され、ビート、馬鈴薯、菜豆、小豆、小麦、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題

一般に弱湿を固し、軽度の排水が望ましい。局所的に分布する砂礫層が浅い箇所は有機物の投入或いは客土が必要であろう。

D 分布

常呂郡訓子府町字穂波、清住の一部。

記載責任者 高尾 欽 弼 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

穂波統 - 2 区

示性分級式(畑)

土表	有表	耕	(表)	(表)	(表)	土	(透)	(保)	(湿)	自	(保)	(固)	土	(養)	(置)	(有)	(酸)	(障)	(化)	(物)	傾	(自)	(傾)	人	(侵)	(耐)	(耐)
壤	効	土	土	土	の	地		然			層	分	換	"	"	効		学	理	的	然	斜	為		水	風	
生	土	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	障	障	害	傾	傾		蝕	蝕	
産	力	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	障	障	害	傾	傾		蝕	蝕	
力	の	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	障	障	害	傾	傾		蝕	蝕	
可	厚	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	障	障	害	傾	傾		蝕	蝕	
能	深	含	難	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	度	性	性	性	斜	向	斜	度	性	性	
性	さ	量	易	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
等																											
級	t	d	g	p		w		f		n		i		s		e											
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	
簡略分級式 Ⅲw Ⅱtn																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は穂波統に属する。本統1区とは湿性の程度及び有効土層、養分の豊富に差異が認められるので区分した。

表土の厚さは20cm内外で中庸、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は粘質で、粘着性中庸、農具の使用に当つてわずかに抵抗を感じる。下層の透水性は中庸であるが、台地からの滲流水の影響を受けているため過湿のおそれが多い。保肥力大、燐酸固定力小で、土層の塩基状態は良好である。置換性塩基含量は多いが、有効燐酸含量が少ない。

特殊の障害性は存在しない。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

一部は耕地に利用され、ビート、馬鈴薯、菜豆、牧草等が栽培されているが、他は放牧地等になっている。

C 地力保全上の問題点

排水不良を呈するので、台地の境界に排水渠を設置し、暗渠排水を実施する必要がある。燐酸含量が低いようであるから燐酸の増施が必要であり、施肥は加里、燐酸に重点をおくことが望ましい。

D 分布

常呂郡訓子府町字西富の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

弥 生 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18~25cmで、腐植含量6%前後、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1~4、明度1~3。細小孔に富む。細粒状、粒状の複合構造で発達程度は弱度である。ち密度9~12で頗る疎~疎である。pH(H₂O) 5.1~5.9。下層との境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ10~20cmで、腐植を欠くSL~Lである。色は5Y~7.5Yで彩度2~4、明度6~7。細孔あり、斑状の酸化沈積物(鉄銹斑)を含む。ち密度20前後で中、pH(H₂O)5.2前後。下層との境界は波状漸変する。

第3層は地表下40~50cm以下で、腐植を欠くLiCが主である。色は5Y~7.5Yで彩度1~2、明度7。均質連結状構造である。斑状の酸化沈積物を含む。ち密度28~34で密~甚密である。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字彌生 試坑No.82

第1層	0~25cm	腐植に富む黒色(10YR1/1)のCL、発達弱度の細粒状、粒状の複合構造、細孔に富む、ち密度9で頗る疎、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、境界波状明瞭。
第2層	25~42cm	腐植を欠く灰黄色(7.5Y6/4)のSL、発達弱度の細塊状構造、細孔あり、斑状の酸化沈積物(鉄銹斑)を含む、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第3層	42cm~	腐植を欠く淡黄灰色(5Y.7/2)のLiC、均質連結状構造、斑状の酸化沈積物あり、ち密度30以上で甚だ密、調査時の湿り半乾~湿、pH(H ₂ O)5.2。

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町字彌生 試坑No.82

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~25	4.6	16.5	43.4	23.0	17.1	CL	69.4	2.49	3.56	0.35	10
2	25~42	4.7	4.3	70.5	20.4	4.8	SL	97.9	2.65	-	-	-
3	42~	5.6	3.7	36.3	30.0	30.0	LiC	-	-	-	-	-

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
		1	5.9	5.3	4.4	2.50	22.2	8.9	2.4	0.5	39.9
2	-	5.2	4.1	4.00	11.3	4.5	3.7	0.2	39.9	587	3.9
3	-	5.2	3.8	4.50	16.8	7.2	7.7	0.3	42.8	669	1.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、日出統、彌生統、穂波統等があるが、何れも堆積様式が異なるので本統と区別される。又、穂波統とは母材並びに下層のち密度が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(凝灰質主)

A-4 堆積様式 水積(河成沖積)

B 地 形

小河川流域の低平地

C 気 候

年平均気温5.2℃、年間降水量785.3mm、無霜期間短く、気候冷涼でしばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、菜豆、小豆、ハツカ、小麦、牧草その他が栽培されている。

E 農業上の留意事項

下層が堅密なので透水不良となり、排水不良を呈している。大部分暗渠排水を実施しているが、完全とは云い難いので完全な明渠、暗渠排水の整備が必要である。又心土耕を行なつて堅密層を破碎する必要がある。

F 分布

常呂郡訓子府町字彌生の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
彌 生 南-彌 生 南	III d w i II t f

(1) 土壌区別説明

弥 生 南 統 一 弥 生 南 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 効 生 産 力 可 能 性 等 級	有 効 土 層 厚 深 さ	表 土 層 易 量	表 土 層 粘 土 着 性	土 層 乾 硬 さ	透 水 性 湿 度	保 湿 性 湿 度	自 然 沃 度	保 固 力 度	土 層 肥 力 度	養 分 固 定 力 度	置 換 性 量	有 効 態 磷 酸 量	障 害 障 害 性	障 害 障 害 性	傾 斜 傾 斜 度	傾 斜 傾 斜 度	侵 蝕 侵 蝕 度	耐 風 耐 水 耐 蝕 性
	t d g p	w	f	n	i	s	e												
III	II III I I 2 1 1	III 3	12-3	II 1 2 2	I 1 1 1 1 2	III 1 3	I 1 - -	I 1 1 1											
簡略分級式	III d w i II t f																		

A 土壌区の特徴

この土壌区は彌生南統一に属する。表土の厚さは18~25cmで中庸、有効土層は40~50cmで浅い。表土の土性は粘質に属するが、粘着性弱く農具の使用に当つてわずかに抵抗を感じる。下層は甚だ堅密な層からなり、透水不良のため過湿のおそれが多い。

第2層以下は土壌化が進んでいない未風化な土壌である。

保肥力大、磷酸固定力小、土層の塩基状態は中庸もしくは少々低い方である。

置換性塩基、有効態磷酸は少々多い方に属する。下層が甚密なため有効土層が浅く、物理的障害を受ける。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、ビート、馬鈴薯、菜豆、小豆、ハツカ、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水は実施されているが、土管が堅密層中に埋設されているため、排水効果が完全に揚つていない感があるから暗渠排水の増設、明渠排水の完備が必要であり、更に心土破砕によつて透水性を高めて排水効果の高揚を図り、併せて土壌の風化を促進することが必要である。

有機物の施用は当然必要である。

D 分 布

常呂郡訓子府町字彌生の一部

記載責任者 高尾 欽 彌 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

安 住 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～24cm、腐植含量は7.7～8.9%、土性はL～CLである。色は10YRが大部分で(2.5Yの処も一部存在する)、彩度2～4、明度2～4である。礫なく、発達弱度の細粒状構造を呈す。ち密度7～17ですこぶる疎～疎である。pH(H₂O)は6.3前後。

下層への境界は波状の処が多い。

第2層は厚さ16～35cm、腐植含量は1.7～2.4%、土性はCL～SCLである。色は2.5Y～5Yで、彩度2、明度4～7の処が大部分で、一部に10YR(5/4)～10YR(4/6)の処がある。礫は殆んどなく、構造も未発達の処が多く、殆んど均質結状である。ち密度は11～18で疎。排水不良のため膜状、層状、斑状の酸化沈積物を含む。pH(H₂O)6.2前後。下層への境界は波状で漸変の処が多い。

第3層はおおむね44cm以下で、腐植含量は2%以下、土性はCL～SLである。色は5Y～7.5Yで、彩度1～2、明度5～7である。礫なく、均質連結状の処が多い。ち密度は12～18で疎である。排水悪く、膜状、層状、斑状の酸化沈積物を含む。pH(H₂O)6.2前後。

代 表 的 断 面 型 態

(所在地) 置戸町 試坑№8

第1層	0～18cm	腐植に富む暗褐(10YR 2/3)のL、礫なく、発達弱度の細粒状構造、ち密度7ですこぶる疎、pH(H ₂ O)6.3前後、調査時の湿めり半干、境界は波状で漸変。
第2層	18～44cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR 5/4)のCL、礫なく、均質連結状、ち密度17で疎、pH(H ₂ O)6.2前後、調査時の湿めり半干、境界は波状で漸変。
第3層	44cm～	腐植を欠く黄灰(5Y 6/2)のCL、礫なく、均質連結状、ち密度15で疎、膜状、層状、斑状の酸化沈積物を含む。pH(H ₂ O)6.2前後、調査時の湿めり湿。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			組 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~18	4.1	2.9	53.6	32.5	11.1	L	82.8	2.56	4.46	0.43	11
2	18~44	4.0	0.5	41.2	43.1	15.2	CL	96.8	2.68	1.41	0.17	8
3	44~	4.1	0.5	44.6	38.1	16.9	CL	116.9	2.71	-	-	-

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽和度 %	燐酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1	7.7	6.3	5.1	0.8	20.5	12.9	1.1	0.4	63.0	911
2	2.4	6.2	4.4	3.0	14.9	7.5	2.6	0.3	50.3	1183
3	-	6.2	4.3	4.2	15.6	9.3	3.1	0.5	59.9	718

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似の土壌統としては、勝山統、中里統がある。勝山統には酸化沈積物がなく、中里統には砂礫層があり、酸化沈積物がないため区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地 形

標高200m内外の平地

C 気 候

気候一般に冷涼。年平均雨量925.0mm、年平均気温4.8℃

D 植生及び利用状況

耕地として利用されている。主要作物は苧類、麦類等である。

E 農業上の留意事項

排水悪く、作物根の伸長を阻害しているため、排水が必要である。

F 分 布

常呂郡置戸町勝山及び秋田、雄勝

調査及び記載責任者 野 村 琥（北海道立中央農業試験場）

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
安 住 - 2	IIIw IItn

置戸町に連続して分布
安住-1は置戸町に分布

② 土壌区別説明

安 住 - 2

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	置	有	微	酸	障	災	傾	侵																																															
壤	効	土	表	表	透	保	固	土	置	有	微	酸	障	災	傾	侵																																														
生	土	粘	土	土	然	屬	分	換	効	害	理	冠	地	自	傾	人																																														
産	土	の	風	の	の	の	性	態	量	物	的	水	冠	斜	為	水																																														
力	の	層	の	乾	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害																																														
可	礫	の	粘	土	基	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃																																														
能	厚	含	難	着	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃																																														
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性																																														
等	級	さ	量	易	湿	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度																																														
級	さ	量	易	湿	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度																																														
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">t</td><td style="width: 10%;">d</td><td style="width: 10%;">g</td><td style="width: 10%;">p</td><td style="width: 10%;">w</td><td style="width: 10%;">f</td><td style="width: 10%;">n</td><td style="width: 10%;">i</td><td style="width: 10%;">a</td><td style="width: 10%;">s</td><td style="width: 10%;">e</td> </tr> <tr> <td>III</td><td>II</td><td>I</td><td>I</td><td>I</td><td>2</td><td>1</td><td>III</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>I</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>II</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>-</td><td>2</td><td>I</td><td>1</td><td>1</td><td>I</td><td>1</td><td>1</td><td>I</td><td>1</td><td>-</td><td>-</td><td>I</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td> </tr> </table>																t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e	III	II	I	I	I	2	1	III	1	2	3	I	1	2	1	II	1	1	1	2	-	2	I	1	1	I	1	1	I	1	-	-	I	1	1	1
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																																																				
III	II	I	I	I	2	1	III	1	2	3	I	1	2	1	II	1	1	1	2	-	2	I	1	1	I	1	1	I	1	-	-	I	1	1	1																											
簡略分級式 IIIw IItn																																																														

A 土壤区の特徴

この土壤区は安住統（大部分置戸町に分布）に属する。表土の厚さは17cm内外、有効土層は1m以上で深い。表土は礫なく壤質で粘着性弱く耕起、砕土は容易である。下層は酸化沈積物を含み、過温のおそれが多い。

保肥力大、固定力小で土層の塩基状態は良好であり、養肥分も特に不足しているものはない。弱酸性を呈する。特殊の障害性はない。地形は平坦で侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

畑及び水田になつている。

C 地力保全上の問題点

排水不良なことが問題になるので、排水を完全実施すること。

D 分 布

常呂郡訓子府町字清住及び置戸町字秋田、勝山。

記載責任者 野村 琮（北海道立農業試験場）

昭和38年3月31日

大 谷 統

(I) 土壤統の概説

A 土壤区の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は12~15cmで腐植含量7~8%、土性はCLが主である。半風化、風化細小中半角、角礫を含む場合が多い。色は10YRで彩度2~4、明度2~3。細粒状、粒状構造で発達程度は弱度である。細孔に富む。ち密度9~12で頗る疎~疎である。pH (H₂O) 5.2~6.2。下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ15~30cmで腐植含量1~2%、土性はCLが主である。未風化、風化細小中角礫を含む。色は10YRで彩度3~6、明度3~7。塊状構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔を僅かに含む。酸化沈積物（鉄銹斑）を含む場合が多い。ち密度18~23で疎~中である。pH (H₂O) 6.0。下層との境界は不規則漸変する。

第3層は20～30cmで、腐植を欠き、土性はLの場合が多い。未風化、半風化細小中角礫に富。色は7.5Yが主で彩度1～4、明度5～7。均質連結状構造を呈し、酸化沈積物（鉄銹斑及びマンガ斑）を含む場合が多い。ち密度26～30で密～甚だ密である。下層との境界は不規則である。

第4層は地表下60cm前後以下で、腐植を欠くCL～C（農学会法触感）である。未風化、半風化細小中、大角礫を含む。色は10YR～7.5YRで彩度4～6、明度4～8。均質連結状構造を呈し酸化沈積物（マンガ斑）を含む場合が多い。ち密度30以上で甚だ密である。

代表的断面形態

（所在地） 常呂郡訓子府町字大谷 試坑No.132

第1層	0～14cm	腐植に富む黒褐色（10YR2/2）のCL、半風化、風化細小中角礫を含む発達弱度の粒状構造、細孔に富む、ち密度8で頗る疎、pH（H ₂ O）6.2、調査時の湿り半乾、境界直線明瞭。
第2層	14～45cm	腐植を欠く明黄褐色（10YR7/6）のCL、半風化、風化細小中半角礫を含む、発達弱度の塊状構造、ち密度23で中、酸化沈積物（鉄銹斑）を含む。pH（H ₂ O）6.0、調査時の湿り半乾、境界波状漸変
第3層	45～65cm	腐植を欠く淡黄灰色（7.5Y8/1）のL（農学会法触感）、半風化、風化小中大角礫を含む、均質連結状、酸化沈積物（鉄銹斑、マンガ斑）を含む、ち密度26で密、調査時の湿り半乾、境界不規則。
第4層	65cm～	腐植を欠く灰黄橙色（10YR6/4）のCL、半風化、風化細小半角、角礫を含む、均質連結状、ち密度30で甚密、調査時の湿り湿、酸化沈積物（マンガ斑）を含む。

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町字大谷 試坑No.132

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭 素 率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0～14	3.6	7.5	50.5	26.0	16.0	CL	90.2	2.50	4.56	0.30	15
2	14～45	2.9	14.9	43.6	23.0	18.5	CL	97.3	2.67	0.67	0.08	8

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 燐 酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	7.7	6.2	5.5	0.25	20.2	12.8	1.4	1.7	63.5	6.62	19.3
2	2.9	6.0	5.0	0.25	10.0	4.9	1.8	1.7	48.9	5.60	2.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、緑丘統、日出統、西富統、豊坂統等があるが、何れも母材、堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩（変成岩、凝灰岩含む）

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地 形

標高160～240mの波状性緩傾斜～傾斜を有する台地。

C 気 候

年平均気温5.2℃、年間降水量785.3mm、無霜期間短く、気候冷涼でしばしば冷害凶作に見舞

れている。

保肥力中、磷酸固定力はごく小で、土層の塩基状態は少々良好である。

置換性塩基、有効態磷酸含量ともに多く、養分は比較的ある

下層は堅硬な赤色珪岩礫を混ざる堅密層で物理的障害がある。複合緩傾斜を有し、水蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

緩傾斜地は耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、菜豆、小豆、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

水蝕発生のおそれが多いから緑作帯の設置、牧草の作付推進等による防止対策が必要である。

暗渠排水未施行地は暗渠排水の実施が必要である。

地形は複合斜面多く、堆肥等の搬入には困難性が伴うので、牧草、緑肥作物の作付を推進して有機物の補給を行なうことが望ましい。施肥面では流亡損失のおそれが多い窒素、加里等に重点をおくことが望ましい。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

清 住 南 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12～18cmで、腐植含量4～5%、土性はSL～Lである。半風化細小礫あり～含む。色は10YR～2.5Yで彩度3～4、明度2～3。細粒状構造で発達程度は弱度である。細小孔に富む。ち密度8～12で頗る疎～疎である。pH(H₂O)5.5～6.2。下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10～15cmで、腐植含量6%内外、土性はSL～Lである。半風化、風化細小半角礫を含む場合が多い。色は7.5Y～7.5YRで彩度1～2、明度2～3。細塊状、塊状の複合構造で発達程度は弱度のものが多い。細孔を含む。ち密度18～20で疎～中である。pH(H₂O)5.5～6.2。下層との境界は波状漸変する。

第3層は厚さ20cm内外で、腐植含量6%内外、土性はCLが主である。半風化、風化細小角礫を含む場合が多い。色は7.5Y～10YRと巾が広く彩度1～4、明度3～4。細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度13～18で中、pH(H₂O)5.7～6.0。下層との境界は波状漸変する。

第4層は厚さ20cm内外で、腐植を欠き土性はSL～L(農学会法触感)である。半風化、風化細小半角礫を含む～富む場合が多い。色は7.5Y～7.5YRと変化に富み、彩度1～6、明度4～5。単粒構造乃至発達弱度の細塊状構造。ち密度15～18で疎、下層との境界は波状漸変もしくは波状明瞭である。

第5層は地表下60～70cm以下で、腐植を欠き土性はSLが主である。半風化、風化細小半角礫に富む場合がある。色は10YRで彩度4、明度7である。単粒構造を呈し、ち密度15前後で疎。斑状の酸化沈積物(鉄銹斑)を含む場合がある。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字清住 試坑№208

第1層	0~12cm	腐植を含む暗褐色(10YR3/4)のSL、半風化、風化細小礫を含む、ち密度12で疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界直線明瞭。
第2層	12~27cm	腐植に富む黄褐色(7.5Y3/1)のSL、半風化、風化細小半角礫を含む、発達弱度の細塊状、塊状の複合構造、ち密度20で中、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	27~45cm	腐植に富む黄褐色(7.5Y3/1)のCL、半風化、風化細小半角礫を含む発達弱度の細塊状構造、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り湿、境界波状稍々明瞭。
第4層	45~70cm	腐植を含む黄灰色(7.5Y4/1)のSL(農学会法触感)、半風化、風化細小半角礫を含む単粒構造、ち密度15で疎、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第5層	70cm~	腐植を欠く灰黄橙色(10YR7/4)のSL~S(農学会法触感)、半風化、風化細小半角礫に富む、単粒構造、ち密度15で疎、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府字清住 試坑№208

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~12	3.3	32.1	38.2	16.4	13.2	SL	85.4	2.49	2.65	0.26	10
2	12~27	3.4	19.8	49.6	19.8	10.8	SL	83.5	2.49	3.69	0.36	10
3	27~45	4.7	38.2	21.7	20.9	19.2	CL	-	-	2.72	0.27	10

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数	有効態 燐 酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.4	5.9	5.1	0.25	18.2	13.9	2.3	0.5	76.4	595	8.9
2	6.2	5.5	4.8	0.50	16.4	10.2	2.6	0.2	62.3	644	7.8
3	4.7	5.7	4.8	0.50	21.4	14.4	2.3	0.3	67.4	766	2.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、西富統、緑丘統、豊坂統、大谷統があるが、南富統、緑丘統、豊坂統とは堆積式が異り、大谷統とは母材が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(凝灰岩質)、固結大成岩(安山岩)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地 形

台地と低平地の接触部に存在し、緩傾斜乃至平坦地である。

C 気 候

年平均気温5.2℃、年間降水量785.3mm、無霜期間短く、しばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、菜豆、小豆、牧草その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

台地からの滲透水の影響により過湿のおそれがあるかもしくは過湿のおそれが多いから、排水溝或は明渠排水の必要がある。

融雪時、降雨時には侵蝕沢からの押し出しがあつて侵蝕を受けたり又は土砂をかぶることがあるから、台地との接触部に排水を兼ねた明渠排水の設置が必要である。

F 分 布

常呂郡訓子府町字情住、緑丘の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
清 住 南 - 1	IIIwe IItgs
" - 2	IIIe IItws

② 土壤区別説明

清 住 南 統 - 1 区

示 性 分 級 式 (畑)

土壤	有効土層	表土	耕土	(表)	(表)	(表)	(土)	(透)	(保)	(湿)	(自)	(保)	(固)	(土)	(養)	(置)	(有)	(酸)	(障)	(化)	(物)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(場)				
級	性	等	厚	能	可	力	産	生	壤																							
III	II	I	II	I	1	1	1	III	2	2	2	3	I	2	1	1	I	1	1	1	2	2	I	1	1	II	2	e	-III	3	2	1
簡略分級式 IIIwe IItgs																																

A 土壤区の特徴

この土壤区は清住統に属する。表土の厚さは12~18cmで浅いかもしくは中庸であり、有効土層は1m以上で深い。作土は壤質で粘着性弱く農具の使用に支障はない。

下層の透水性は中庸もしくは少々良好であるが、台地からの滲透水によつて排水不良を呈している。保肥力中、磷酸固定力ごく小で、土層の塩基状態は良好である。石灰、苦土、加里含量は少々多く、有効磷酸は中庸で、養肥分は中庸に属する。

特殊の障害性は存在しない。地形は緩傾斜を呈し、水蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用されて、馬鈴薯、ビート、菜豆、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

台地からの滲透水により過湿のおそれが多く、又融雪時、降水時には一時的に流水が発生して、土壌侵蝕が見られ、更に土砂をかぶる場合もあるから、台地との接触部に排水明渠を設置する必要がある。

C 分 布

常呂郡訓子府町字清住の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

清 住 南 統 一 2 区

示 性 分 級 式 (畑)

土壌	表土	表土	耕土	(表土)	(表土)	(表土)	(透)	(保)	(湿)	(自)	(保)	(固)	(土)	(養)	(置)	(有)	(酸)	(障)	(化)	(傾)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)		
効	土	土	土	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	学	理	然	斜	為	水	風		
産	土	の	の	の	乾	乾	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	学	理	然	斜	為	水	風		
力	の	の	の	の	乾	乾	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	学	理	然	斜	為	水	風		
可	の	の	の	の	乾	乾	乾	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	学	理	然	斜	為	水	風		
能	厚	含	難	土	着	硬	乾	乾	乾	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	学	理	然	斜	為	水	風		
性	深	含	難	土	着	硬	乾	乾	乾	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	学	理	然	斜	為	水	風		
等	深	含	難	土	着	硬	乾	乾	乾	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	学	理	然	斜	為	水	風		
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	度	性	性	性	性	斜	斜	斜	度	性	性	性		
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	2	1	1	Ⅱ	22-32	Ⅰ	1	1	1	Ⅰ	1	1	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅱ	2	e	-Ⅲ	3	2	1
簡略分級式 Ⅲe Ⅱtws																												

A 土壌区の特徴

この土壌区は清住統に属する。表土の厚さは20~30cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は粘質に属するが、粘着性弱く農具の使用に当つてわずかに抵抗を感じる。下層の透水性は中庸であるが、台地からの滲透水により過湿となるおそれがある。

保肥力大、燐酸固定力ごく小で、土層の塩基状態は良好である。置換性塩基、有効燐酸含量ともに多く養肥分は少々豊富な方である。特殊の障害性は存在しないが、侵蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、菜豆、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

台地から滲透水によつて過湿になるおそれがあり、融雪時、降雨時には一時的流水或は増水によつて侵蝕を受け或は土砂を被冠するから、台地との接触部に排水を兼ねた明渠排水の設置が必要である。

D 分 布

常呂郡訓子府町字緑丘の一部

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

駒 里 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~21cmで、腐植含量6~7%、土性はCLが主である。半風化細中半角礫を含む。色は10YRで彩度4、明度3。細粒状構造で発達程度は弱度である。細孔に富む。ち密度10~14で疎である。pH(H₂O)5.4~5.8。下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ15~25cmで、腐植含量2%内外、土性はCLが主である。半風化細半角礫をわずかに含む。色は7.5YRで彩度4~6、明度4~5。細塊状構造で発達程度は中度である。細孔に富む。ち密度19前後である。pH(H₂O)5.9前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は10~15cmで、腐植を欠き土性はCLが主である。半風化、風化細小中半角礫を含む。細塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度17前後で疎である。斑状の酸化沈積物に富む、pH(H₂O)5.9、下層との境界は波状漸変である。

第4層は厚さ30cm前後で、腐植を欠き、土性はCが主である。色は10YRが主で彩度6、明度7である。塊状構造で発達程度は弱度である。斑状の酸化沈積物に富む。ち密度15前後で疎である。下層との境界は波状明瞭である。

第5層は地表下75cm以下で、腐植を欠き、土性はSL~Lである。色は10YRが主で彩度4、明度7。斑状の酸化沈積物に富む。塊状構造で発達程度は弱度である。ち密度14前後で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 常呂郡訓子府町宇駒里 試坑No.12

第1層	0~15cm	腐植に富む暗褐色(10YR 3/4)のCL、発達弱度の細粒状構造、半風化細中半角礫を含む。ち密度14で疎、pH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界直線明瞭。
第2層	15~40cm	腐植を含む明褐色(7.5YR 5/6)のLiC、半風化細半角礫を含む、発達中度の細塊状構造、細孔に富む、ち密度19で中、pH(H ₂ O)5.9 調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第3層	40~53cm	腐植を欠く暗黄色(5Y 5/6)のScL、半風化、風化細小中半角礫を含む、発達弱度の細塊状構造、細孔に富む。ち密度17で疎、pH(H ₂ O)5.9、斑状の酸化沈積物(鉄銹斑)に富む、調査時の湿り湿、境界波状漸変。
第4層	53~75cm	腐植を欠く明黄褐色(10YR 7/6)のC(農学会法触感)、発達弱度の塊状構造、細孔あり、ち密度15で疎、斑状の酸化沈積物(鉄銹斑)に富む。調査時の湿り湿、境界波状明瞭。
第5層	75cm~	腐植を欠く灰黄橙色(10YR 7/4)のSL~L(農学会法触感)、発達弱度の塊状構造、ち密度14で疎、斑状の酸化沈積物に富む、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町字駒里 試坑No. 12

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~15	5.1	8.9	42.6	27.5	21.0	CL	8.11	2.60	4.02	0.37	11
2	15~40	5.9	5.7	39.0	27.0	28.3	LiC	10.44	2.61	1.49	0.17	9
3	40~53	4.6	25.4	41.3	18.2	15.1	SCL	11.9.9	2.78	0.97	0.10	10

層位	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 磷 酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.6	5.4	4.8	0.50	2.60	1.91	3.8	1.0	73.5	7.53	29.8
2	2.4	5.9	4.9	0.25	25.4	2.15	3.8	0.4	84.8	9.97	1.8
3	1.6	5.9	4.9	0.25	18.7	15.7	3.4	0.3	84.1	8.13	1.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては清住南統、大谷統等があるが、母材に若干相違が見られるので本統と区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(凝灰質)、変成岩(赤色珪岩)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地 形

小河川と開折谷との間に分布し、稍々平坦である。

C 気 候

年平均気温 5.2℃、年間降雨量 785.3mm、無霜期間短く、気候冷涼でしばしば冷害凶作に見舞われる。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され馬鈴薯、ビート、菜豆、牧草その他の作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

暗渠排水の実施されていないところは、台地からの滲透水の影響を受けて過湿となるおそれがあるから明渠或は暗渠排水の実施が必要である。

開折谷に近い台地との接触地域は一時的な流水によつて侵蝕を受けるおそれがあるので排水を兼ねた明渠排水を設置する必要がある。土壌は礫を含むが、養肥分は比較的ある。堆厩肥、緑肥等の施用に努め地力を維持することが望ましい。

F 分 布

常呂郡訓子府町字駒里の一部。

調査及び記載責任者 高尾 欽 弥(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
駒 里-駒 里	IIIw Iigep

② 土壤区別説明

駒 里 統 一 駒 里 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	((土	((自	((養	((障	(傾	(侵	(耐	耐									
壤	効	土	表	表	表	土	透	保	湿	然	層	分	置	有	酸	化	物	自	傾	人	侵	水	風	耐								
生	土	土	土	土	土	土	地																									
産	土	土	土	土	土	土	の																									
力	の	の	の	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷														
可	の	の	の	の	の	の	乾																									
能	の	の	の	の	の	の	乾																									
性	厚	深	含	難	土	着	乾																									
等	の	の	の	の	の	の	乾																									
級	さ	さ	量	易	((湿	((度	((力	力	態	量	((性	性	斜	向	斜	度	性							
	t	d	g	p		w		f			n				i		s			e												
III	I	I	II	II	2	2	1-2	III	2	2	2-3	I	1	2	1	I	1	1	1	1	2	I	1	1	I	1	-	-	II	2	2	1
簡略分級式 IIIw IIgcp																																

A 土壤区の特徴

この土壤区は駒里統に属する。表土の厚さは15cm内外で稍々浅く、有効土層は1m以上で深い。作土は礫を含み、土性は粘質で、粘着性中庸であり、農具の使用に当ってかなり低抗を感じる。保水性及び、下層の透水性は中庸であるが、台地からの滲透水により過湿のおそれがあり、局部的に過湿のおそれの多いところもある。

保肥力大、磷酸固定力小で、土層の塩基状態は良好であり、置換性塩基、有効磷酸含量多く、養分は稍々多い方である。特殊の障害性は存在しない。開折谷に近い台地との接触部は開折谷からの一時的増水により侵蝕を受ける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、馬鈴薯、ビート、菜豆、小豆、小麦、牧草その他の作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

暗渠排水の実施のところは湿性の程度により明渠或は暗渠排水の実施が必要である。

台地との接触部、特に開折谷の近くでは滲透水の影響が強く、又開折谷からの一時的流水による侵蝕も発生するので、これを遮断する明渠排水の設置完備が必要である。

一般に作土層が浅いから堆厩肥、緑肥等の有機物を捕給しながら逐次深耕して行くことが望ましい。

D 分 布

常呂郡訓子府町字駒里の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥 (北海道立農業試験場)

昭和40年3月31日

緑 丘 南 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～22cmで、腐植含量5～6%、土性はCL～Lである。半風化細小中大半角、角礫を含む場合が多い。色は7.5YR～10YRで彩度2～4、明度2～3。細粒状構造で、発達程度は弱度である。ち密度10前後で疎、pH(H₂O)5.4～6.0。下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10～20cmで腐植含量2～3%、土性はCLが主である。半風化細小中大角礫に富む。色は7.5YR～10YRで彩度4～6、明度4～5。細粒状構造で発達程度は弱～中度である。細孔を含む。ち密度18～25で疎～中である。pH(H₂O)5.6。下層との境界は波状漸変する。

第3層は地表下40cm内外以下で、腐植を欠き、土性はL～CLである。半風化細小中大半角、角礫に富む～頗る富む、色は7.5YR～10YRで彩度4～6、明度5。均質連結状構造を呈し、酸化沈積物(鉄銹斑)を含む場合がある。ち密度20～30で甚だ密である。

代表的断面形態

(所在地) 常呂郡訓子府町字緑丘 試坑№161

第1層	0～20cm	腐植に富む黒褐色(10YR2/3)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)6.0、調査時の湿り半乾、境界波状漸変。
第2層	20～40cm	腐植を含む褐色(10YR4/6)のCL、半風化細小中大半角、角礫に富む、発達中度の細塊状構造、ち密度18で中、pH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾～湿、境界波状漸変。
第3層	40cm～	腐植を欠く黄褐色(10YR5/6)のL(農学会法触感)、半風化細小中大半角、角礫に頗る富む、ち密度29以上で甚だ密、調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

常呂郡訓子府町 試坑№161

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0～20	4.3	17.3	41.0	26.5	15.1	CL	103.6	2.57	3.38	0.28	1.2
2	20～40	3.5	27.1	30.0	26.4	16.4	CL	115.8	2.81	1.47	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	6.0	5.1	0.25	19.9	15.4	3.3	0.2	77.4	6.67	13.5
2	2.5	5.6	4.4	1.25	11.7	6.0	2.1	0.1	51.4	61.2	1.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、大谷統、緑丘統、豊坂統等があるが、緑丘統、豊坂統とは堆積様式が異り、大谷統とはかなり類似する事項があるが、本統は崩積性の程度が強いので区別される。

A-3 母材 非固結水成岩、変成岩

A-4 堆積様式 崩積

B 地形

標高240～280mの傾斜～緩傾斜地。

C 気候

年平均気温5.2℃、年間降水量785.3mm、無霜期間短く、気候冷涼でしばしば冷害凶作に見舞われる。

多く置換性加里含量は中庸で養肥分は中庸もしくは少々多い方である。

有効土層浅く、堅硬な中大礫が存在するため物理的障害を受ける。耕地は主に緩傾斜を有し、山地から一時的流水或は増水によつて水蝕を受けることが多い。

B 植生及び利用状況

傾斜地は山林となつているが、緩傾斜地は耕地化され、馬鈴薯、ビート、菜豆、小豆、牧草その他の飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

地表から中～大礫の存在するところは除礫が必要であり、排水工事未施行のところは明渠、暗渠排水の実施が必要である。又開折谷に近いところは一時的流水或は増水による被害を受けるから明渠排水の完備或は砂防堤の設置等が必要と思われる（砂防堤の設置については経済効果の問題もあり検討が必要であろう）。

耕地は水蝕のおそれが多いから緑作帯、牧草の作付等による防止対策が必要である。

D 分 布

常呂郡訓子府町字大谷、緑丘、協成、開盛、常盤の一部。

記載責任者 高尾 欽 弥（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

3 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

地形、土壌断面の特徴、重要な保全対策を検討の上次の保全対策地区を設定した。

水 田

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
実 郷	実 郷-実 郷 清住中央-清住中央 西富中央- 1 " - 2 " - 3	3 3 7	湛水透水性が大きく 養肥分が流亡し易い 初期生育が悪い 気象的災害を受け易い	客土優良粘土の施用 施肥合理化 健苗育成、気象災害の回避
穂波中央	穂波北-穂波北 穂波中央-穂波中央 清住東-清住東	2 1 3	排水悪く、易分解性 有機物多く還元化が進む 初期生育悪く、生育遅延を示す 気象的災害を受け易い 鉄、鋳質物不足	排 水 施肥合理化 健苗育成、気象災害の回避 客 土

畑

保全対策地区名	該当土壌区	畑面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
常 盤	常 盤-常 盤 北 栄 北-北 栄 北	1 2 0	緩傾斜 作土が少々浅い 有機物施用	有機物を施用して漸次 深耕 保全耕作
豊 坂	豊 坂-豊 坂 柏 丘 北 - 1 " - 2 豊坂中央-豊坂中央 彌 生 南-彌 生 南	1 3 7 9	排水不良 有効土層浅い 下層堅密で未風化 緩傾斜	明渠、暗渠の完全実施 心土破砕 有機物施用 施肥合理化 保全耕作
大 谷	大 谷-大 谷 緑 丘 南-緑 丘 南	7 0 5	排水不良 緩傾斜~傾斜で侵蝕 大 有効土層浅く下層堅 密 地表から礫出現作土 が一般に浅い	明渠、暗渠の完全実施、 一部排水渠の設置 保全耕作 心土破砕 除 礫 有機物を施用して漸次 深耕
柏 丘	柏 丘-柏 丘 春 日 - 2 豊 坂 西-豊 坂 西 清 住 南 - 1 " - 2	1 4 4 8	排水不良 緩傾斜 一部磷酸固定力強	明渠、暗渠排水の完全実施 保全耕作 磷酸資材の施用 施肥合理化
日 出	日 出 - 1 " - 2 " - 3	6 1 1	緩傾斜 腐植含量小 (日 出-1) " - 3	保全耕作 有機物施用 施肥合理化
彌 生 西	彌 生 西 - 1 " - 2	1 4 7	傾斜~緩傾斜で侵 蝕大	保全耕作 有機物施用
駒 里	駒 里-駒 里 安 住 - 2 穂 波 - 1 " - 2	1 5 7	地形平坦~緩傾斜 排水少々不良	一部侵蝕防止(駒里) 明渠、暗渠の実施
緑 丘	緑 丘-緑 丘	2 0 9	地表から礫出現 有効土層浅い	一部除礫 有機物施用 一部客土
西 富	西 富-西 富 中 里 - 4 大谷中央-大谷中央	3 2 5	作土層少々浅い 有効土層中	有機物を施用しながら 漸次深耕

2) 保全対策地区別説明

水 田

<実郷保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面 積 (ha)				備 考 (該当土壌区)
	水 田	普 通 畑	樹 園 地	計	
常呂郡訓子府町	337	0	0	337	実郷-実郷 清住中央-清住中央 西富中央 - 1 " - 2 " - 3

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

当地帯は稲作限界地帯にあつて気温低く、初期生育の不良と生育遅延の傾向をたどることが多く、また盛夏の障害型低温の襲来と秋期の早霜が大きな被害をもたらすことがしばしばあり、気象的災害の危険性をはらんでいる。これらの気象的災害を軽減もしくは回避して安全確収を得るのが従来からの課題でありかつ当面の問題でもある。これがため品種の撰択、健苗の育成、本田にあつては初期生育促進のための施肥技術、襲来する低温が稚苗に対する影響の回避技術の高揚が更に一段と必要になる。

土壌は一般に減水深がやや高く漏水のやや大きい傾向を有するから前記の点とからみ合せて施肥対策の充実と更には土壌改良の面も考慮する必要がある。

② 営農の方向その他

本地帯は網走支庁管内でも水田酪農発生の地とされているだけに、その経営内容は水田耕作に畑作と乳牛導入が加わつた多角経営が行なわれ、気象的災害による影響を軽減せしめて経営経済の安定化を期そうとして来ているが、今後もこの方向を更に推進することが望ましいものとする。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
客土、優良粘土の施用	清住中央-清住中央 西富中央- 1 " 2 " 3 261ha	礫層の極く浅いところ、 礫層が浅くかつ土性が粗 いところは客土、或は土 壌改良剤の施用	埴質土壌、ペントナイト等
施肥合理化	清住中央-清住中央 実郷-実郷	加里肥料の増施、表層施 肥の併用、窒素の分追肥	指導の徹底
健苗育成	西富中央- 1 " - 2 " - 3 337ha	気象災害回避のため健苗 の育成技術の向上 品種の選択	指導の徹底

< 穂波中央保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	積 (ha)				備考 (該当土壌区)
	水田	普通畑	樹園地	計	
常呂郡訓子府町	213	0	0	213	穂波北-穂波北 穂波中央-穂波中央 清住東-清住東

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

実郷保全対策地区同様の気象的な影響を受け、かつ排水不良田であるため水稻は初期生育の不振と生育遅延を示す。従つて前区同様品種の選択、健苗の育成、初期生育の促進と、生育中期以後の潜在窒素発現の調節、生育初~中期の低温による被害を回避する技術の向上が重要事項となる。

土壌は下層堅密による排水不良或は泥炭等により一般に還元化の進む土壌であるから排水の施行、燐酸、加里の増施、表層施肥等が必要である。

② 営農の方向

前対策地区同様一般に水田酪農が行なわれているが、今後更にこれを推進することが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	穂波北-穂波北 穂波中央-穂波中央 清住東-清住東 213ha	明渠、暗渠排水、一部排水渠の実施	工事費の助成
施肥合理化	同上	燐酸、加里の増施、窒素の表層施肥重点	指導の徹底
健苗育成	同上	気象的災害回避のためと初期生育促進のため健苗育成技術の向上 品種の選択	指導の徹底
客土	清住東-清住東 22ha	埴質土壌の客土	工事費の助成

畑

< 常盤保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (該当土壌区名)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡訓子府町	120	-	120	常盤-常盤 北栄北-北栄北

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本調査地域内では土壌的に大きな問題はなく、特に北栄北一北栄北は地味中庸で、比較的くせのない土壌である。

しかし常盤一常盤の地理的、立地条件の問題がある。即ち、独立、隔絶された台地上にのみ耕地が存在し、周辺は巨大な転石が存在する傾斜地で農道らしき道もなく、加えて用水に不更を来す等土壌肥料の問題に優先する営農立地条件が劣悪である。

② 営農の方向、その他

常盤区は現営農者の今後のあり方について、農業技術的なこともさることながら行政的経営的な面からの検討を要するところである。

北栄北区は有機物を富化しながら漸次深耕して行き、燐酸、加里を増施することが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
深耕	常盤一常盤 北栄北一北栄北 120ha	有機物を施用しながら漸次深耕	トラクター
有機物施用	同上	牧草畑の拡大 堆厩肥の増産 主畜経営の推進	家畜の導入 畜産施設の整備
営農についての検討	常盤一常盤 39ha	行政、指導、経済機関による検討	

< 豊坂保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積		(ha)	備考 (該当土壌区名)
	普通畑	樹園地		
常呂郡誦子府町	1,379	0	1,379	豊坂一豊坂 柏丘北 - 1 " - 2 豊坂中央一豊坂中央 彌生南一彌生南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川の両側に存在する台地上に主に分布している。凝灰岩、凝灰質を基盤とし、下層は未風化で堅密に堆積しているため透水が悪く、排水不良を呈し、一般に有効土層が浅い。

相当面積暗渠排水が実施され、排水効果は揚つているが、堅密層内に土管が埋設されているため排水は少々緩慢に行なわれる傾向があり、弱湿性を呈する場合が多い。

一般に腐植を少々多く含み、下層は燐酸固定力大で塩基に不足し勝ちである。

地形は波状性緩傾斜を呈し、水蝕の発生が見られる。

② 営農の方向、その他

暗渠排水未施行のところは早急に実施することが必要である。暗渠排水施行地内に於いても弱湿性を呈しているところが多いから補設暗渠の実施を要し、或は心土破砕が必要である。

主として混同経営が営まれているが、当地域の気候条件と弱湿性的な土壌条件、更に侵蝕防止の面から見て、一層これを推進拡大して行くべきと考える。施肥面では磷酸、加里に重点を置き、牧草の施肥を特に実施すべきである。

トラクター導入に伴い、必然的に深耕が予期されるが、この場合には有機物は勿論のこと石灰、磷酸資材の投入が必要であり、又施肥量を増量することが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	豊坂一豊坂 柏丘北 - 1 " - 2 豊坂中央一豊坂中央 彌生南一彌生南 1,379ha	暗渠排水(未実施地) 暗渠実施地は補設暗渠の実施	工事費の補助
心土破砕	同上	60cm内外まで心土破砕	大型トラクター 事業費の補助が必要
保全耕作	同上	緑作帯の設置 牧草畑の拡大	
有機物施用	同上	有畜経営推進による牧草地の造成拡大 堆厩肥の増産	畜産施設の融資補助 乳牛の導入推進増大
施肥合理化	同上	加里に重点を置く 深耕の場合は石灰、磷酸の投入及び施肥量の増加	

< 大谷保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (該当土壌区名)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡訓子府町	705	0	705	大谷一大谷 緑丘南-緑丘南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

② 特徴と問題点

常呂川南側台地の開折谷に面した傾斜～緩傾斜地で、地表から堅硬な半角礫が出現する。下層は甚だ密に堆積しているため透水性が悪く、更に斜面上部からの伏流水も加つて排水不良を呈している。有効土層浅く、作土層も一般に浅い方である。水蝕の発生がかなり見られる。

地形は複合斜面を呈し、農道が未整備のため各種営農資材、生産物の搬入搬出には困難性を伴う。

② 営農の方向、その他

穀菽経営、混同経営が行なわれているが、傾斜地のため作業能率が低く、水蝕等の影響も加つてその生産は高くはない。

傾斜の程度によつて侵蝕防止をも考慮した作付利用区分を行ない、混同経営もしくは主畜経営を推進して行くことが望ましい。

施肥面では水蝕による養分の流亡が考えられるので窒素、加里を増施する必要がある。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	大谷-大谷 緑丘南-緑丘南 705ha	排水未施行地暗渠排水 一部排水渠の設置	工事費の補助
保全耕作	同上	緑作帯の設置 牧草の作付増大	
心土破砕	同上	心土破砕 60cm内外まで破砕	トラクター(特殊) 工事費補助又は融資
有機物施用	同上	牧草畑の造成増大 主畜経営の推進	
深耕	同上	有機物を施用しながら漸次深耕	トラクター導入助成
除礫	同上	地表に巨大礫の存在する ところは除礫の要あり	

< 柏丘保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)		備考 (該当土壌区名)
	普通畑	樹園地	
常呂郡訓子府町	1,448	0	柏丘-柏丘 春日 - 2 豊坂西-豊坂西 清住南 - 1 " - 2

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川北側台地上の面積の半ばを占め、腐植含量多く、保水性が強く、下層の透水性が少々不良のため排水不良を呈す。

暗渠排水実施により排水効果はかな揚つているが、表土の保水性が強いこと、下層の透水が悪いことから排水は少々緩慢に行なわれ、弱湿性的様相を帯びしている。

下層は磷酸固定力大で磷酸に欠乏し、酸性を呈するところが多く、トラクター等の大型農機具の導入による必然的深耕が予期され、この場合作土に対する心土の混入が問題となる。

地形は緩かな傾斜を示すが、融雪時、降雨時に水蝕の発生するところがある。

② 営農の方向、その他

主として混同経営が行なわれているが、当地帯の気候、土壌条件から見て、更にこれを推進し、場合によっては主畜経営にもつて行くことも必要と考えられる。

表土は保水性が強く、下層の透水が悪いため、ところによつては滲透、伏流水の影響によつて排水不良を呈しているから、暗渠排水未施行のところは可及的早期に明渠、暗渠排水の実施が必要であり、又排水渠の必要なところもある。暗渠排水施行地にあつて、排水効果の低いところは補設暗渠排水の施行も考慮すべきであろう。

一般に加里の肥効が大きいので、施肥面では加里に重点を置き、磷酸の増施も必要と思われる。特に深耕を実施するような時には石灰、磷酸資材の投与と施肥量を増加する必要があると思われる。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	柏丘-柏丘 春日-2 豊坂西-豊坂西 清住南-1 " -2 1,448ha	明渠、暗渠排水の完全実施、一部排水渠 排水実施地でも低効果のところは補設暗渠	工事費の助成
保全耕作	同上	緑作帯設置 牧草畑の拡大	
施肥合理化	柏丘-柏丘 春日-2 1,322ha	磷酸の増施 加里、磷酸を施肥の中心とする。 深耕の場合は石灰、磷酸資材の投与並びに施肥量の増加	炭カル150~250 ^{kg} /10a 熔成燐肥40 ^{kg} /10a

< 日出保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (該当土壌区名)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡訓子郡町	611	0	611	日出-1
				"-2
				"-3

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

地形は緩傾斜を呈するが、土壌の耐侵蝕性が乏しいため水蝕が発生し、ところによつては風蝕の被害を受けることがある。

一般に腐植含量少なく、透水性が良好であり土壌侵蝕と相まつて養肥分が流亡し易いと考えられる。心土は磷酸固定力大で、有効磷酸が少なく、弱酸性を呈する。

② 営農の方向、その他

一般に混同経営が営まれているが、土壌侵蝕防止、有機物の富化を図るためには更に有畜経営を推進すべきであろう。

大型機械化に伴い必然的な深耕が予期されるが、この場合は有機物の施用を行ない、磷酸資材、石灰資材の投与が必要であり、更に施肥量を増加することが必要であろう。

施肥面では加里、苦土、磷酸を重点とする事が望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
保全耕作	日出 - 1	防風林の完備(日出-1)	カラマツ植林 傾斜用農具の利用
	" - 2	緑作帯の設置	
	" - 3	等高線栽培(日出-3)	
	611ha	有畜経営発展による牧草畑の拡大	
有機物肥用	日出 - 1	有畜経営発展による牧草畑の拡大	畜産施設の整備助成
	" - 3	堆厩肥の増産	
	412ha		
施肥合理化	日出 - 1	加里、苦土、磷酸に施肥	熔成磷肥 $40^{kg}/10a$ 炭カル $100\sim 200^{kg}/10a$
	" - 2	の重点を置く	
	" - 3	深耕の場合は磷肥、石灰資材を投入し、施肥量を増加する。	
	611ha		

< 弥生西保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (談当土壌区名)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡訓子府町	147	0	147	彌生西 - 1 " - 2

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

交通状況あまりよくなく、地形は複合斜面を形成し、土壌侵蝕が多く、農耕に不更を来している。侵蝕を多く受けるので土壌は瘠薄化し易い。

② 営農の方向、その他

穀菽経営、混同経営が営まれているが、地形上農作業に不便を来し、土壌侵蝕を多く受けるから、むしろ主畜経営に転換すべきではなからうか。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
保全耕作	彌生西 - 1 " - 2 147ha	緑作帯設置 等高線栽培 牧草の作付拡大	傾斜地用農具
有機物施用	同上	有畜経営発展により牧草作付の拡大 堆肥の増産	畜産施設の整備助成

< 駒里保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (該当土地区名)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡訓子府町	157	0	157	駒里-駒里 穂波-1 安住-2 "-2

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川、訓子府川の流域に分布する沖積地帯で、地形平坦で隣接して水田が耕作されている。台地から滲透水によつて排水不良を呈するところがある。又一部開析沢からの一時的流水、増水により侵蝕を受けるところがある。

② 営農の方向、その他

水田、畑作、乳牛飼養が一農家で行なわれているところが多く、北見地域の水田酪農発生地の一部である。今後更に集約経営の方向に進むものと思われるが、経営面積の拡大が目下の課題であろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	穂波 - 1 " - 2 安住 - 2 駒里-駒里 157ha	明渠排水、暗渠排水の実施	工事費助成
水蝕防止	駒里-駒里 26ha	捕水明渠(土砂止めを兼ねる) 緑作帯の設置	

＜緑丘保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (該当土壌区名)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡訓子府町	209	0	209	緑丘-緑丘

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川の支流域に分布している。地表から堅硬な半角、円礫が出現し、農耕に支障を来たしているところが多い。又下層は礫層からなるところが多く有効土層が浅く、局部的に旱害を受けるところもある。

作土層も一般に少々浅く、腐植含量が少ない。

② 営農の方向、その他

一般に混同経営が営まれている。土壌的には有機物の施用を図って行くことが望ましいので、更に畜畜化を推進して行くべきであろう。

砂礫層が極く浅く、旱害を被るところは客土が必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
有機物施用	緑丘-緑丘 209ha	有畜経営推進による牧草畑の拡大、堆厩肥の増産	畜産施設の整備助成
除礫及び客土	同上	地表に中、大、巨礫のあるところは除礫 砂礫層浅く被旱害箇所は壤質、埴質土壌の客土	ストーンピツカー 事業費助成

＜西富保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (該当土壌区名)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡訓子府町	325	0	325	西富-西富 中里-4 大谷中央-大谷中央

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川流域に分布する地帯で、生産力は一般に高い。

土壌的には特別な問題はないが、一般に作土が少々浅い傾向がある。

② 経営の方向、その他

北見地域の水田酪農発生の地であり、集約的経営が営まれており、生産は当地域としては高い方である。最近一部に蔬菜栽培が手がけられつつあるが、本区の立地条件から集約多角的経営が推進されると思われる

今後の経営については経営面積拡大の方向をとると考えられるが、現在所有面積が狭いので、この点が目下の課題になるであろう。

有機物を施用しながら漸次深耕して行くことが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資材及び機械器 具の種類、型式、数量
有機物施用と深耕	西 富 - 西 富 中 里 - 4 大谷中央 - 大谷中央 3 2 5ha	有機物を施用しながら漸 次深耕して行く	トラクター導入助成

4 調査成績一覽表

土壤分析成績

水 田

保全対策区	土 壤 区	地点番 号	層 位	深 さ	礫 (風乾物中 %)	理 学 性								pH	
						風乾細土中		細土無機物中					土 性	H ₂ O	KCl
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %			
													性		
実 郷 保 全 対 策 地 区	清 住 中 央	2 4 5	1	0-18		3.5	7.2	67	460	52.7	31.9	15.4	C L	5.6	4.3
			2	18-30		4.0	2.0	65	482	24.9	24.9	20.4	C L	5.9	4.5
			3	30-60		4.0	-	2.3	37.0	39.3	45.1	15.6	SiCL	5.8	4.4
	美 郷	2 5 2	1	0-18		4.1	5.0	88	394	48.2	28.9	22.9	C L	5.6	4.4
			2	18-45		2.7	-	37.2	46.6	83.8	10.0	6.2	S L	6.2	5.1
			3	45-75		3.7	-	22.8	55.7	78.5	14.8	6.7	S L	6.5	4.7
	西 富 中 央 1	2 2 2	1	0-18		2.2	3.7	14.3	56.5	70.3	17.6	11.6	S L	5.7	4.6
			2	18-30		1.8	-	14.4	65.3	79.7	12.2	8.1	S L	6.3	5.1
			3	30-50		2.0	-	15.5	69.9	85.4	7.5	7.1	L S	6.4	4.9
西 富 中 央 3	2 3 1	1	0-20		3.6	7.3	3.9	27.7	31.6	42.1	26.3	LiC	5.5	4.3	
		2	20-		3.8	2.2	6.7	15.8	22.5	44.4	33.1	LiC	6.0	4.8	
西 富 中 央 3	2 2 8	1	0-15		3.0	7.0	20.3	41.1	61.4	26.1	12.5	L	5.5	4.3	
穂 波 中 央 保 全 対 策 地 区	穂 波 北 央	2 2 9	1	0-17		4.4	7.1	6.2	39.6	45.8	35.4	19.8	C L	5.4	4.3
			2	17-35		5.0	5.4	3.6	33.5	37.1	38.0	24.9	C L	5.8	4.6
			3	35-60		3.3	-	11.3	65.4	76.7	15.5	7.8	S L	5.3	3.9
	穂 波 中 央	2 3 7	1	0-15		4.8	12.3	5.6	37.0	42.6	39.2	18.2	C L	5.8	4.7
			2	15-47		5.4	-	1.3	12.6	13.9	53.1	33.0	S iC	5.1	3.9
			3	47-67		5.7	-	1.0	9.8	10.8	60.9	28.3	S iC	4.9	3.6
	清 住 東	2 4 9	1	0-15		3.6	15.6	18.6	43.6	62.2	26.2	11.6	L	5.8	4.8
2			15-35		8.7	-	-	-	-	-	-	-	5.3	4.3	
			3	35-60		5.6	-	-	-	-	-	-	5.0	3.9	

化 学 性																
置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 容 量 me / 100g	置 換 性 mg / 100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	乾 土 効 果	30℃ NH ₃ -N 發 生 量		有 効 態 mg / 100g			遊 離 酸 化 鐵 %
	T-C	T-N	C		CaO	MgO	K ₂ O				乾	濕	B ₂ O ₅	N	SiO ₂	
	%	%	%													
250	4.16	0.32	13	250	2299	32.3	188	33.0	905	104	11.2	0.8	13.1	11.2		0.67
200	1.24	0.16	8	21.2	2888	44.4	47.1	48.4	1,180	27	4.1	1.4	0.4	4.1		1.25
125	-	-	-	21.2	3505	66.5	15.9	590	817	-	-	-	7.7	-		1.20
100	2.90	0.27	11	24.9	3785	66.5	14.1	538	1,005	11.3	15.5	4.2	5.9	15.5		1.13
025	-	-	-	15.9	361.7	40.3	23.6	80.8	94.6	1.9	5.1	3.2	0.7	5.1		1.18
075	-	-	-	20.8	316.9	86.7	23.6	55.0	1,001	-	-	-	4.2	-		1.25
050	2.13	0.22	10	14.9	263.6	46.4	47.1	63.1	61.7	3.0	12.0	9.0	3.9	12.0		
025	-	-	-	18.1	241.1	50.4	61.2	47.4	61.1	4.1	5.4	1.3	8.6	5.4		
025	-	-	-	13.9	235.5	46.4	61.2	60.6	59.6	-	-	-	4.1	-		
225	4.24	0.35	12	24.6	286.0	44.4	42.4	42.4	90.6	12.1	14.4	2.3	10.6	14.4		0.88
025	1.25	0.11	12	22.1	412.2	40.3	75.4	75.4	1,013	4.5	5.1	0.6	tr	5.1		1.20
225	4.07	0.32	13	20.2	2299	20.2	15.0	40.6	858	5.8	9.0	3.2	15.3	9.0		0.62
150	4.11	0.33	12	19.4	232.7	26.2	18.8	42.8	77.4	13.6	19.1	5.5	8.6	19.1		0.26
075	3.12	0.28	11	22.3	319.7	46.4	28.3	51.0	86.2	12.9	14.3	1.4	3.4	14.3		1.11
900	-	-	-	13.9	137.4	42.3	18.8	35.5	62.0	-	-	-	tr	-		0.93
075	7.13	0.51	14	26.0	319.7	26.2	14.1	43.9	1,172	17.7	24.7	7.0	6.1	24.7		0.82
525	-	-	-	19.0	151.4	54.4	14.1	28.9	68.5	1.0	1.8	0.8	3.3	1.8		0.80
800	-	-	-	14.0	134.6	64.5	-	34.3	60.2	-	-	-	2.4	-		0.64
075	9.04	0.61	15	22.5	367.0	50.4	10.0	58.3	53.9	13.1	22.6	9.5	25.9	22.6		0.41
175	-	-	-		645.5	100.8	28.3		1,789	24.7	28.9	4.2	0.4	28.9		0.58
600	-	-	-		123.4	32.3	9.4		88.1	-	-	-	0.8	-		0.38

畑

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ %	理 学							現地 100		
					風乾細土中		細土無機物中					土 性	容 積 重 g	固 相 容 積 cc
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %			
常盤保 全对 策 地区	常盤一 常盤	187	1	0-21	49	40	21.0	34.3	553	269	178	CL	89.2	34.0
			2	21-35	68	15	27.1	32.0	59.1	29.0	119	L	1057	388
			3	35-	9.0	-	27.5	32.7	60.2	27.4	124	L	-	-
豊坂保 全对 策 地区	豊坂一 豊坂	198	1	0-20	39	54	11.2	41.4	52.6	29.7	17.6	CL	83.1	32.2
			2	20-35	4.1	40	1.78	37.1	54.9	27.1	18.0	CL	112.9	41.4
			3	35-57	3.5	-	1.83	42.0	60.3	30.0	9.6	L	-	-
			4	57-	5.1	-	1.32	41.4	54.6	29.5	15.9	CL	-	-
	131	1	0-15	4.1	7.1	9.2	42.4	51.5	32.8	15.6	CL	88.6	38.3	
		2	15-28	4.2	2.2	1.61	27.4	43.5	32.5	23.9	CL	98.8	37.7	
		3	28-40	3.6	-	2.37	29.3	53.0	29.3	17.7	CL	-	-	
	柏丘北 -1	57	1	0-25	5.4	11.8	6.8	43.9	50.7	33.2	16.1	CL	80.0	35.6
			2	25-40	5.9	2.9	8.6	28.0	36.6	33.7	29.6	LiC	86.9	33.0
			3	40-	2.4	-	2.05	39.5	60.8	27.5	12.5	L	-	-
柏丘北 -2	18	1	0-15	6.6	14.2	-	-	-	-	-	-	-	70.0	25.8
		2	15-32	8.3	4.4	10.4	40.4	50.8	33.7	15.5	CL	71.7	27.2	
		3	32-40	6.0	-	1.88	37.6	56.4	24.7	18.8	CL	86.7	33.0	
常盤保 全对 策 地区	北栄北 -北栄 北	29	1	0-14	4.9	8.3	8.9	41.4	50.3	30.2	19.5	CL	96.6	39.1
			2	14-25	5.2	2.5	1.19	30.0	41.9	39.2	18.9	CL	111.5	42.9
			3	25-40	4.0	1.2	1.33	36.6	49.9	30.7	19.4	CL	111.5	41.7
			4	40-	4.8	-	1.17	42.8	54.5	29.0	16.4	CL	-	-
柏丘保 全对 策 地区	柏丘一 柏丘	48	1	0-20	6.0	14.6	5.4	49.7	55.1	33.9	11.0	L	58.9	25.8
			2	20-35	9.1	10.2	2.0	26.0	28.0	53.1	18.9	SiOL	61.6	26.1
			3	35-45	7.8	-	1.21	40.4	52.5	35.9	11.6	L	70.0	28.3
	58	1	0-20	7.0	12.0	7.7	40.0	47.7	37.8	14.5	L	80.0	35.0	
		2	20-35	8.3	6.9	1.82	44.4	62.6	29.2	8.2	L	64.7	25.5	
		3	35-60	6.5	-	1.99	48.2	68.1	23.8	8.1	SL	80.5	31.5	
		春日一 2	21	1	0-20	4.1	5.7	18.5	37.3	55.8	28.2	16.0	CL	84.7
2	20-35	3.6		1.1	2.71	37.0	64.1	24.8	11.1	L	119.8	44.4		
3	35-	3.4		-	2.37	30.8	54.5	31.7	13.7	L	-	-		
日出保 全对 策 地区	日出一 1	113	1	0-15	4.3	9.6	10.8	50.6	61.4	25.6	13.0	L	69.7	29.1
			2	15-30	6.6	2.8	9.9	43.9	53.8	28.4	17.7	CL	81.9	30.7
			3	30-55	6.4	-	2.30	39.1	62.1	30.0	7.8	L	65.2	24.5

性			化 学 性												
おける理理性 cc容 中			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me /100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg /100g
水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C /N		CaO	MgO	K ₂ O			
322	338	660	61	50	0.38	242	0.30	12	172	3283	611	1068	681	878	88
344	268	612	53	41	525	094	009	10	181	2106	714	473	415	1006	21
-	-	-	52	40	5.75	-	-	-	243	3452	1218	226	507	1219	-
303	378	678	63	52	025	325	023	14	170	3460	284	222	726	696	84
353	233	586	59	44	1.00	063	007	9	101	1273	532	183	450	686	21
-	-	-	63	45	0.75	-	-	-	95	1113	627	239	418	481	-
-	-	-	65	46	0.50	-	-	-	118	1514	948	225	458	672	-
378	239	617	60	50	025	431	029	15	190	3373	369	1173	633	630	134
291	332	623	58	46	0.75	181	013	10	121	1940	712	359	572	731	27
-	-	-	58	44	100	-	-	-	98	1276	389	221	464	629	10
486	158	644	55	45	1.50	720	048	15	289	3656	171	150	451	1053	163
416	254	670	52	41	11.50	182	019	10	186	864	246	173	166	1311	20
-	-	-	63	45	0.50	-	-	-	85	872	327	171	356	375	-
416	326	742	53	45	1.75	881	060	15	394	5213	484	526	472	1464	96
453	276	729	53	44	325	281	027	10	207	2311	385	225	398	1974	16
453	217	670	55	43	225	-	-	-	152	1612	746	180	378	1120	-
435	174	609	60	48	0.25	504	036	14	258	4646	456	138	642	971	35
369	202	571	58	44	1.50	155	014	11	166	2114	507	521	454	928	20
321	262	583	59	44	1.50	075	008	9	137	1489	756	599	388	792	-
-	-	-	62	42	0.50	-	-	-	102	1290	593	355	451	637	-
472	270	742	52	44	250	902	061	15	348	3511	643	221	361	1413	128
584	155	739	50	42	1075	650	048	14	223	735	234	138	117	2506	23
524	193	717	52	43	500	-	-	-	199	457	280	183	82	2015	-
527	123	650	53	43	400	746	056	13	342	2451	296	116	256	1828	24
518	227	745	55	45	220	437	034	13	217	779	331	82	128	2329	23
482	203	685	58	46	1.50	-	-	-	241	866	158	155	128	1916	-
391	280	671	56	46	1.00	345	027	13	214	2779	1195	235	463	887	100
368	188	556	57	44	1.25	063	007	9	97	1122	304	221	412	564	10
-	-	-	61	44	0.75	-	-	-	106	1523	939	427	512	430	14
284	425	709	59	51	025	581	042	14	263	4324	365	253	586	1041	225
343	350	693	53	43	475	177	019	9	171	1169	356	375	244	1754	20
275	480	755	56	47	1.25	-	-	-	128	864	484	140	241	1723	-

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ	理 学										現地 %	
					風乾細土中		細土無機物中					土 性	100			
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 %	固 相 容 積 cc		
日出保 全对策 地区	日出- 2	103	1	0-18	52	130	83	462	545	277	178	CL	758	322		
			2	18-35	76	163	86	312	398	328	273	LiC	668	291		
			3	35-50	88	72	173	417	590	312	98	L	622	243		
			4	50-80	69	-	161	512	693	289	38	SL	647	246		
	日出- 3	153	1	0-35	39	71	113	502	615	222	163	CL	775	300		
			2	35-65	33	15	132	334	466	333	201	CL	1111	414		
3			65-	38	-	163	356	516	343	138	L	1105	431			
彌生西 保全对 策地区	彌生西 - 1	77	1	0-14	40	79	121	438	559	281	160	CL	879	357		
			2	14-25	38	27	161	371	532	247	194	CL	1031	394		
			3	25-45	37	-	175	359	534	265	201	CL	1216	429		
			4	45-67	33	-	224	427	651	261	88	SL	1221	444		
	彌生西 - 2	78	1	0-20	31	48	216	364	580	265	155	CL				
			2	20-35	36	24	209	372	581	257	162	CL				
3			35-60	39	13	225	369	594	243	163	CL					
柏丘保 全对策 地区	豊坂西 - 豊坂 西	186	1	0-18	38	54	149	408	557	303	140	L	991	361		
			2	18-35	53	15	187	302	489	308	203	CL	1286	480		
			3	35-55	64	-	225	385	610	262	128	L	1235	474		
豊坂保 全对策 地区	豊坂中 央- 豊 坂中央	193	1	0-17	28	58	164	438	602	260	137	L	1026	419		
			2	17-33	48	16	242	347	589	259	153	CL	1134	420		
			3	33-50	15	-	617	259	876	68	55	LS	-	-		
西富保 全对策 地区	西富- 西富	214	1	0-28	32	46	31	495	526	322	152	CL	851	309		
			2	28-45	29	14	07	522	530	329	142	L	989	380		
			3	45-67	28	-	20	652	672	214	114	SL	-	-		
	中里- 4	216	1	0-17	39	57	54	590	644	235	120	L	790	313		
			2	17-33	35	-	22	642	664	244	92	SL	1012	382		
	大谷中 央- 大 谷中央	117	1	0-25	44	75	56	421	477	286	237	CL	875	355		
2			25-45	48	24	35	390	425	277	298	LiC	1015	400			
3			45-	34	-	159	589	748	130	121	SL	1056	389			
緑丘保 全对策 地区	緑丘- 緑丘	158	1	0-15	38	49	79	378	457	317	226	CL	959	364		
			2	15-30	53	19	24	372	396	295	309	LiC	-	-		
駒里保 全对策 地区	穂波- 1	136	1	0-20	47	84	40	414	454	325	221	CL	841	338		
			2	20-35	50	48	49	329	378	369	253	LiC	914	354		
			3	35-55	42	14	14	243	257	521	222	SiCL	1083	404		

性			化 学 性													
おける理学性 cc 容 中			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数 mg 100g	有 効 態 磷 酸 mg 100g	
水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C / N		CaO	MgO	K ₂ O				
338	290	67.8	5.8	4.8	0.75	7.98	0.54	15	25.8	432.4	21.4	15.8	5.98	1.066	1.95	
421	288	70.9	5.6	4.6	2.25	10.21	0.72	14	43.8	576.2	47.8	17.1	46.9	1.663	2.0	
382	375	75.7	5.4	4.5	1.25	4.56	0.41	11	28.1	192.6	38.1	15.6	24.4	2.178	1.5	
389	365	75.4	5.6	4.7	1.25	-	-	-	18.4	94.2	36.3	26.9	18.3	2.008	-	
31.9	38.1	70.0	5.9	4.9	0.50	4.30	0.29	15	18.9	325.0	3.99	34.5	61.3	7.43	9.6	
31.3	27.3	53.6	6.0	4.6	0.75	0.88	0.11	8	11.6	152.3	44.8	16.1	46.8	6.92	1.4	
34.7	22.2	56.9	5.9	4.5	0.75	-	-	-	11.2	135.2	6.98	26.0	43.0	7.12	-	
35.8	26.5	64.3	6.2	5.2	0.25	4.77	0.32	15	23.3	495.5	3.95	62.5	75.8	7.76	8.7	
31.7	28.9	60.6	5.9	4.8	0.50	1.61	0.16	10	14.8	282.8	37.3	35.8	55.1	6.79	3.8	
32.2	24.9	57.1	5.8	4.5	0.75	-	-	-	11.5	167.4	7.64	35.1	51.9	7.11	1.4	
34.6	21.0	55.6	6.0	4.5	0.75	-	-	-	9.8	156.5	61.5	36.8	56.9	6.60	-	
			5.3	4.3	3.50	2.90	0.22	13	17.1	102.3	31.9	4.26	38.0	7.45	6.4	
			5.3	4.3	4.75	1.42	0.11	12	11.9	117.8	27.8	50.6	35.3	6.62	4.4	
			5.5	4.3	2.25	0.79	0.06	13	9.9	84.7	44.2	-	30.5	5.83	1.4	
34.2	29.7	63.9	7.1	6.4	0	3.26	0.28	12	21.6	626.4	71.4	54.3	103.4	8.54	1.94	
32.7	19.3	52.0	6.0	4.8	0.50	0.91	0.08	11	16.2	311.0	5.85	51.3	68.5	10.20	1.7	
34.9	17.7	52.6	5.4	4.3	2.75	-	-	-	18.3	265.8	80.8	64.1	51.8	11.25	-	
40.4	17.7	58.1	5.8	4.9	0.50	3.44	0.25	14	15.5	285.7	15.1	25.7	65.7	7.35	14.6	
36.3	21.7	58.0	5.9	4.6	0.75	0.96	0.09	10	12.6	157.6	64.5	5.99	44.6	6.96	1.3	
-	-	-	6.2	4.7	0.50	-	-	-	4.4	48.5	35.7	21.3	3.97	2.88	-	
39.3	2.98	6.9	5.9	4.9	0.50	2.75	0.27	10	27.0	501.9	41.9	85.2	66.3	6.11	1.77	
41.3	20.7	62.0	6.0	4.9	0.25	0.82	0.14	6	18.0	350.2	41.5	22.5	6.94	6.57	11.3	
-	-	-	6.4	5.0	0.25	-	-	-	16.1	328.3	44.2	42.5	72.7	6.40	7.7	
32.6	36.1	68.7	6.3	5.5	0.25	3.42	0.31	11	26.0	655.0	55.4	91.5	8.98	6.80	30.5	
39.1	22.7	61.8	6.8	5.7	0	-	-	-	18.9	461.8	51.8	31.5	8.71	7.40	8.8	
32.5	32.0	64.5	6.6	5.8	0	4.55	0.39	12	31.9	583.0	71.4	91.5	65.2	9.05	36.4	
33.0	27.0	60.0	6.3	5.2	0.25	1.45	0.17	9	28.4	61.97	64.5	31.5	81.3	1.195	17.5	
30.9	30.2	61.1	6.5	4.9	0.25	-	-	-	18.9	428.2	62.7	17.5	80.8	8.03	9.8	
28.4	35.2	63.6	5.6	4.6	0.75	2.97	0.26	11	25.6	434.1	50.5	44.8	60.5	9.00	1.94	
-	-	-	5.8	4.4	0.75	1.16	0.12	10	25.0	518.2	90.5	32.3	73.9	1.156	2.3	
36.0	30.2	66.2	5.5	4.6	1.00	5.11	0.40	13	26.6	375.7	72.6	78.7	50.4	8.76	1.92	
40.4	24.2	64.6	5.9	4.9	0.50	2.91	0.26	11	26.3	474.6	100.8	54.4	64.2	9.57	2.8	
38.5	21.1	59.6	6.0	4.8	0.50	0.87	0.10	9	19.4	398.7	134.1	64.6	73.3	7.92	-	

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ	理 学										現地 γ 100	
					風乾細土中		細土無細物中					土 性	容 積 重 γ	固 相 容 積 cc		
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %					
駒里保 全对策 地区	穂波- 2	218	1	0-25	3.9	3.9	1.7	43.9	45.6	35.2	1.92	CL	1072	42.9		
			2	25-35	4.2	1.3	3.3	53.7	57.0	27.2	15.8	CL	1005	38.7		
			3	35-60	2.9	-	1.66	64.1	80.7	14.3	5.0	SL	1028	38.9		
豊坂保 全对策 地区	彌生南 - 彌生 南	82	1	0-25	4.6	5.9	1.65	43.4	5.99	23.0	1.71	CL	6.94	2.79		
			2	25-42	4.7	-	4.3	70.5	74.8	20.4	4.8	SL	9.79	3.69		
			3	42-	5.6	-	3.7	36.3	40.0	30.0	30.0	LiC	-	-		
大谷保 全对策 地区	大谷- 大谷	132	1	0-14	3.6	7.6	7.5	50.5	58.0	26.0	1.60	CL	90.2	3.61		
			2	14-45	2.9	1.1	1.49	43.6	58.5	23.0	1.85	CL	97.3	3.65		
柏丘保 全对策 地区	清住南 - 1	208	1	0-12	3.3	4.4	3.21	38.2	70.3	16.4	1.32	SL	8.54	3.43		
			2	12-27	3.4	6.2	1.98	4.96	6.94	1.98	1.08	SL	8.35	3.35		
			3	27-45	4.7	6.2	3.82	2.17	5.99	20.9	1.92	CL	-	-		
	清住南 - 2	155	1	0-30	3.4	6.8	13.0	50.6	63.6	2.10	1.48	CL	6.78	2.71		
			2	30-47	4.7	4.1	1.89	3.94	58.3	25.7	1.59	CL	8.08	3.14		
			3	47-70	3.4	-	2.41	4.66	70.7	15.1	1.41	SL	8.42	3.15		
駒里保 全对策 地区	駒里- 駒里	12	1	0-15	5.1	6.6	8.9	42.6	51.5	27.5	2.10	CL	8.10	3.12		
			2	15-40	5.9	2.4	5.7	39.0	44.7	27.0	2.83	LiC	10.44	4.00		
			3	40-53	4.6	1.6	2.54	4.13	66.7	1.82	1.51	SoL	11.99	4.31		
安住- 2	75 (置戸)	1	1	0-17	10.0	8.9	7.8	50.8	58.6	22.6	1.88	CL	8.02	3.19		
			2	17-31	5.2	1.7	9.6	4.95	5.91	1.94	2.16	SoL	-	-		
			3	31-52	3.8	-	32.1	4.68	78.9	1.41	7.0	SL	-	-		
大谷保 全对策 地区	緑丘南 - 緑丘 南	161	1	0-20	4.3	5.6	17.3	4.10	58.3	26.5	1.51	CL	103.6	40.3		
			2	20-40	3.5	2.5	27.1	30.0	57.1	2.64	1.64	CL	115.8	41.2		

性			化 学 性												
おける理学性 cc 容 中			pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me /100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg /100g
水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	KCl		T-C %	T-N %	C / N		CaO	MgO	K ₂ O			
45.1	120	57.1	56	4.5	1.00	237	0.25	9	2.14	3483	329	382	580	743	2.0
44.7	166	61.3	58	4.7	0.50	0.81	0.13	6	180	4099	474	353	81.2	745	2.8
39.1	220	61.1	61	4.9	0.25	-	-	-	12.9	2238	599	50.3	61.9	560	-
30.1	420	72.1	53	4.4	2.50	3.56	0.35	10	222	2484	482	227	399	922	17.4
40.5	226	63.1	52	4.1	4.00	-	-	-	11.3	1265	740	92	399	587	3.9
-	-	-	5.2	3.8	4.50	-	-	-	168	201.6	154.4	14.1	428	669	1.6
36.1	278	63.9	62	5.5	0.25	4.56	0.30	15	202	3600	288	77.8	63.5	662	1.93
32.1	31.4	63.5	60	5.0	0.25	0.67	0.08	8	10.0	137.1	363	79.2	489	560	2.0
30.1	35.6	65.7	59	5.1	0.25	2.65	0.26	10	182	3900	458	25.2	76.4	595	8.9
40.7	258	66.5	55	4.8	0.50	3.69	0.36	10	16.4	2866	52.6	7.8	62.3	644	7.8
-	-	-	5.7	4.8	0.50	2.72	0.27	10	21.4	404.3	462	12.5	67.4	766	2.2
298	43.1	72.9	62	5.4	0.25	4.09	0.36	11	228	5384	720	71.9	84.2	628	23.9
386	30.0	68.6	62	5.3	0.25	2.51	0.27	9	198	3199	450	64.9	57.6	749	3.6
37.1	31.4	68.5	60	5.0	0.25	-	-	-	12.7	2069	57.5	32.4	58.1	546	2.1
278	41.0	68.8	54	4.8	0.50	4.02	0.37	11	260	5356	770	44.8	73.5	753	2.92
340	26.0	60.0	59	4.9	0.25	1.49	0.17	9	25.4	603.7	77.2	17.3	84.8	997	1.8
292	27.7	56.9	59	4.9	0.25	0.97	0.10	10	18.7	440.8	68.7	12.5	84.1	813	1.1
41.9	26.2	68.1	57	4.3	4.2	5.16	0.43	12	24.5	323.1	25.4	28.9	47.0	1498	5.0
-	-	-	5.8	4.1	98	0.97	0.15	7	10.3	101.4	23.5	33.8	35.0	84.6	0.1
-	-	-	6.1	4.3	39	-	-	-	12.6	161.3	41.7	15.7	45.6	1055	1.0
40.7	190	59.7	60	5.1	0.25	3.38	0.28	12	19.9	432.1	65.7	9.2	77.4	667	13.5
268	320	58.8	56	4.4	1.25	1.47	-	-	11.7	168.5	42.7	3.5	51.4	612	1.4